

---

---

# 檀原運動公園整備基本構想

---

---

令和 7 年 3 月

檀原市



## 《目 次》

1. 橿原運動公園整備基本構想の目的及び位置づけ .....	1
(1) 本構想の目的 .....	1
(2) 本構想の位置づけ .....	1
2. 橿原運動公園の概況等 .....	2
(1) 橿原市内の主な都市公園及び公共スポーツ施設等 .....	2
(2) 橿原運動公園の概要 .....	5
3. 橿原運動公園の利用状況・課題及び対応事項等 .....	11
(1) 橿原運動公園の利用状況 .....	11
(2) 橿原運動公園の課題 .....	17
(3) 橿原運動公園の対応事項等 .....	20
4. 橿原運動公園整備に関連する公共スポーツ施設再編に係る主要動向整理 .....	25
(1) 中央体育館の再整備 .....	25
(2) 橿原市立小中学校における今後の水泳授業に関する展望 .....	30
5. 橿原運動公園整備の基本的な考え方 .....	32
(1) 整備により目指す方向性 .....	32
(2) 整備コンセプト .....	32
(3) 整備方針 .....	33
6. 新体育館・屋内プール整備の考え方 .....	36
(1) 新体育館・屋内プールの整備方針 .....	36
(2) 新体育館・屋内プールの導入機能・規模等 .....	37
7. 想定される事業手法の類型整理 .....	39
(1) 橿原運動公園整備事業の全体構成と想定事業手法 .....	39
(2) 新体育館・屋内プールの事業手法 .....	39
8. 施設整備スケジュール .....	40
(1) 段階的整備 .....	40
(2) 短期的整備の整備スケジュール .....	40
9. 事業費概算(短期的整備) .....	41
10. 橿原運動公園整備事業推進に向けて .....	42
(1) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良県大会を見据えた事業実行 .....	42
(2) 拡張用地取得と基盤整備 .....	42
(3) 基本計画の策定及び事業手法の確定 .....	42
(4) 効率的・合理的な事業監理 .....	42



# 1. 榿原運動公園整備基本構想の目的及び位置づけ

## (1) 本構想の目的

榿原運動公園は、榿原市民や榿原市を訪れる方々が、各種スポーツ・レクリエーション活動に親しむことを目的として、昭和 51 年に開園した榿原市を代表する屋外型複合運動公園です。

天然芝の硬式野球場、少年野球などで活用できる軟式野球場やソフトボール場、照明コートを備えたテニスコート、人工芝で照明設備のある多目的グラウンドを有し、様々なスポーツ種目に関して、本格的な競技利用から気軽に楽しむエンジョイ利用まで、幅広いスポーツ活動を支えてきました。

また、万葉集にも詠まれた畝傍山に抱かれる榿原運動公園は景観も良好で、園内には多目的広場やバラ園があり、日々の散策や健康づくり、様々なコミュニティを育む場としての役割も担っています。

一方、本市内の主要な公共スポーツ施設に目を向けると、中央体育館は、昭和46年の建築から築53年を迎え、老朽化により著しく劣化した状態で早急な建替えが必要となっている状況にあり、「市民の誰もが利用でき、すべての人にやさしい体育館」、「人が集い、交流拠点となる体育館」、「国民スポーツ大会で誘致する競技に対応できる体育館」を目指して、新体育館の整備が求められる状況があります。

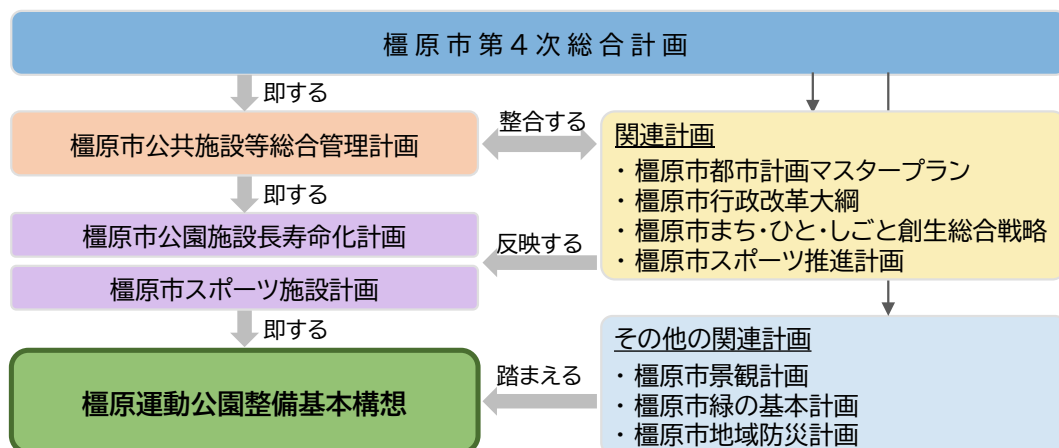
また、「榿原市立小中学校における今後の水泳授業に関する方針」(令和5年12月26日榿原市教育委員会)に掲げられるように、様々な環境が緩やかに大きく変化してきているなか、学校プールの集約化への対応や、既存の榿原市総合プール(閉鎖中)の新たな用途での利活用なども課題として顕在化している状況があります。

このような状況を踏まえ、従来の榿原運動公園の機能を高めるとともに、環境変化による社会的要請や諸課題を受けて、持続的な榿原市経営に資する新たな機能を発揮することを見据えて、榿原運動公園の整備の方向性を基本構想としてとりまとめます。

## (2) 本構想の位置づけ

本構想は、榿原市の主な上位関連計画に基づき、また整合をとりながら策定するものです。

【図表1】本構想の位置づけ



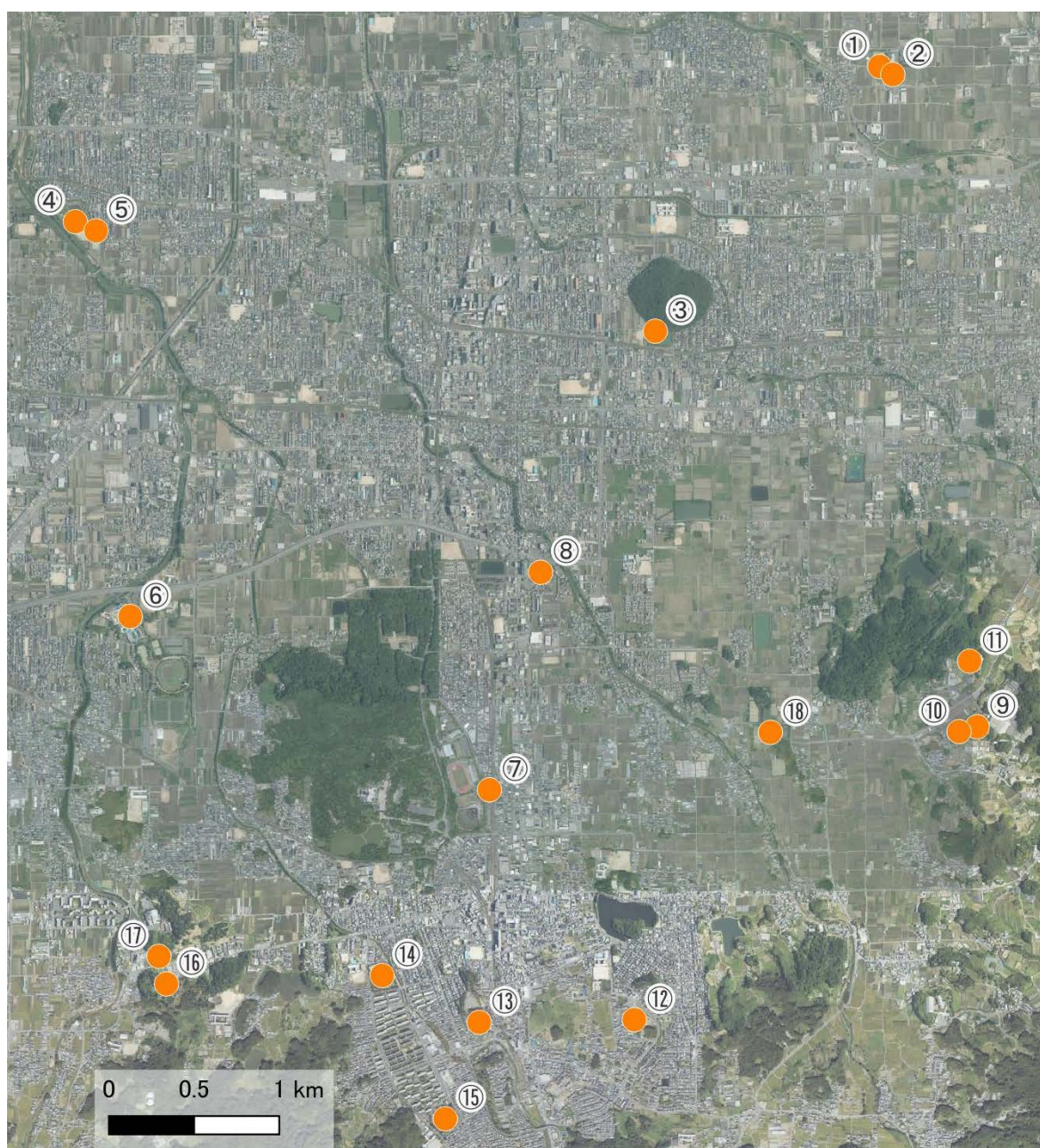
## 2. 檀原運動公園の概況等

### (1) 檀原市内の主な都市公園及び公共スポーツ施設等

檀原市は数々の都市公園を有しており、史跡等も多く立地しています。

公共スポーツ施設は、檀原運動公園を中心に、数々のスポーツ種目に対応する施設が備わり、また、奈良県立檀原公苑も本市内に立地しています。

【図表2】檀原運動公園の立地及び主な関連施設等(市域全体図)



(出典) 国土数値情報ダウンロードサイト、地理院地図(国土交通省国土地理院ウェブサイト)を基に作成



① 東竹田近隣公園			
住所	橿原市東竹田町 124-1	面積	19,855 ㎡
施設概要	複合遊具：大(小学生以上用)、複合遊具：小(幼児用)、多目的広場、芝生広場、修景池、ドーム型運動施設(ひがしたけだドーム)、トイレ：かしはらグリーンドーム内、駐車場：有		
② ひがしたけだドーム			
住所	橿原市東竹田町 124-1	面積	1,465㎡
施設概要	アリーナ、屋外ニュースポーツ(グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフ・ペタンクなど)、レクリエーション的な室内スポーツ(バドミントン・ソフトバレーボールなど)、トイレ：有		
③ 耳成山公園			
住所	橿原市木原町 108	面積	5,222 ㎡
施設概要	トイレ：有、トイレ(バリアフリー)：有、駐車場：35 台		
④ 曾我川緑地			
住所	橿原市曾我町 1226	面積	74,479 ㎡
施設概要	芝生広場、複合遊具、四阿、トイレ：2か所、駐車場：120 台		
⑤ 曾我川緑地体育館			
住所	橿原市曾我町 1212	面積	3,038 ㎡
施設概要	アリーナ、武道場、スポーツスタジオ、トレーニングルーム、駐車場：14 台		
⑥ 橿原運動公園			
住所	橿原市雲梯町 323-2	面積	293,667 ㎡
施設概要	硬式野球場、軟式野球場、ソフトボール場、庭球場、多目的グラウンド(ヤタガラスフィールド橿原)、総合プール(閉鎖中)、まほろば広場、遊びの森、バラ園など、トイレ：有、駐車場：有		
⑦ 県立橿原公苑			
住所	橿原市畝傍町 53	面積	163,000 ㎡
施設概要	陸上競技場、多目的広場、野球場、第 1 体育館、第 2 体育館、庭球場(フットサルコート)、相撲場、弓道場、トイレ：有、駐車場：有		
⑧ 中央体育館			
住所	橿原市小房町 11-1	面積	813 ㎡
施設概要	アリーナ(観客席有)、バトミントンコート：4 面、バスケットボールコート：2 面、バレーボールコート 2 面		
⑨ 香久山公園			
住所	橿原市南山町 624	面積	44,084 ㎡
施設概要	木製ステージ、「橿原市昆虫館」、バッタのアスレチックやクワガタの滑り台、くもの巣のジャングルジムなど、昆虫の遊具、トイレ：香久山体育館、香久山墓園墓園センター内、駐車場：有、臨時駐車場：有		
⑩ 香久山体育館			
住所	橿原市南山町 624	面積	－ ㎡
施設概要	<1階>トレーニングルーム、スタジオ <2階>アリーナ、テラス、事務室、男女ロッカー、ロビー、駐車場：有		

⑪ 万葉の丘スポーツ広場			
住所	橿原市戒外町 43-1	面積	41,000 ㎡
施設概要	テニスコート、パターゴルフ、アーチェリー・弓道場、トイレ：有、駐車場：57 台		
⑫ 植山古墳公園			
住所	橿原市五条野町 2041	面積	公園計画面積：25,000 ㎡
施設概要	複合遊具、石の砂場、芝生広場、多目的広場、植山古墳および外周を史跡指定し、遺跡部は長方形の外形復元、双室墳石室修復中、トイレ：有（バリアフリー対応）、駐車場：有（西エリア）		
⑬ 見瀬近隣公園			
住所	橿原市白檀町 2-2222	面積	14,430 ㎡
施設概要	複合遊具、テニスコート、ゲートボール場、トイレ：有、駐車場：6 台		
⑭ 鳥屋近隣公園			
住所	橿原市白檀町 3-1341	面積	23,268 ㎡
施設概要	テニスコート、ゲートボール場、バックネット、多目的広場、四阿 トイレ：有（バリアフリー対応）、駐車場：無		
⑮ 白檀近隣公園			
住所	橿原市白檀町 8-2193	面積	24,295 ㎡
施設概要	展望広場、多目的広場、複合遊具、四阿、トイレ：有（バリアフリー対応）、駐車場：無		
⑯ 新沢千塚古墳群公園			
住所	橿原市川西町	面積	253,000 ㎡
施設概要	古墳群、龍の噴水（ミストあり）、OTENKIテラス、棚田の広場、桜の広場等、トイレ：有、駐車場：龍の広場 80 台/大型 3 台、桜の広場 30 台、シルクの杜 22 台、歴史に憩う橿原市博物館 30 台		
⑰ シルクの杜			
住所	橿原市川西町 855-1	面積	－㎡
施設概要	温浴施設（歩行用プール）、温浴施設（ジャグジー）、温浴施設（幼児プール）、トレーニングルーム、ダンス教室、教室2・3、室内浴場、露天風呂、サウナ、屋上足場、トイレ：有、駐車場：有 （隣接するクリーンセンターの熱を有効に利活用するための施設）		
⑱ 県立橿原公苑 明日香庭球場			
住所	高市郡明日香村小山 183	面積	64,831㎡
施設概要	テニスコート、宿泊施設（クラブハウス、宿泊室、シャワールーム、更衣室、会議室）、トイレ：有、駐車場：有		

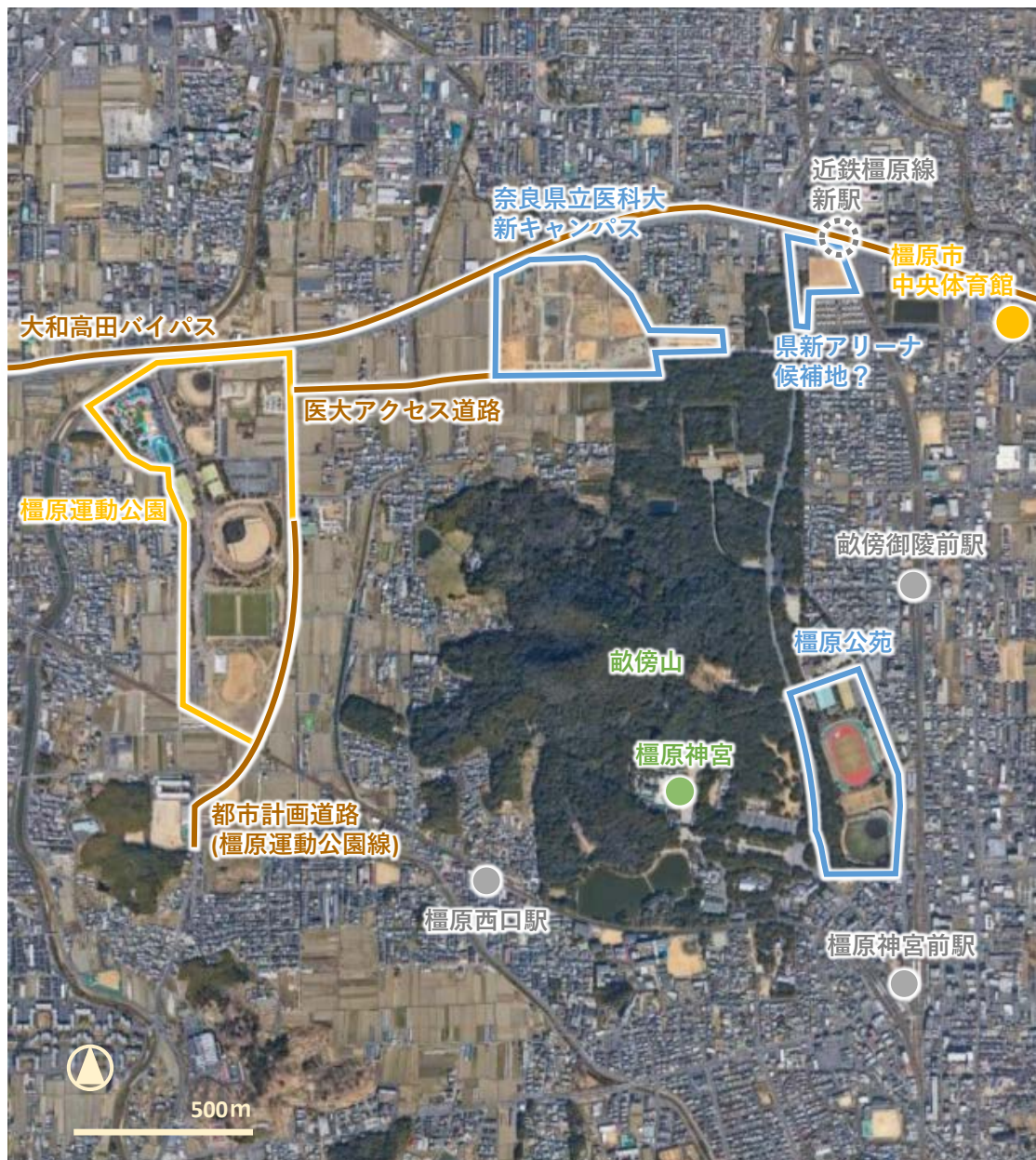


## (2) 橿原運動公園の概要

### ① 位置及び周辺環境

橿原運動公園は、橿原市のほぼ中央部に位置する畝傍山に抱かれた、風光明媚なエリアの一角に位置しています。周辺エリアは、近年、奈良県立大学新キャンパス整備や奈良県立新アリーナ建設、新駅計画など、新たな都市機能や人の流れが生まれる環境の変化が生まれているエリアです。

【図表3】 橿原運動公園の立地及び主な関連施設等(市域全体図)



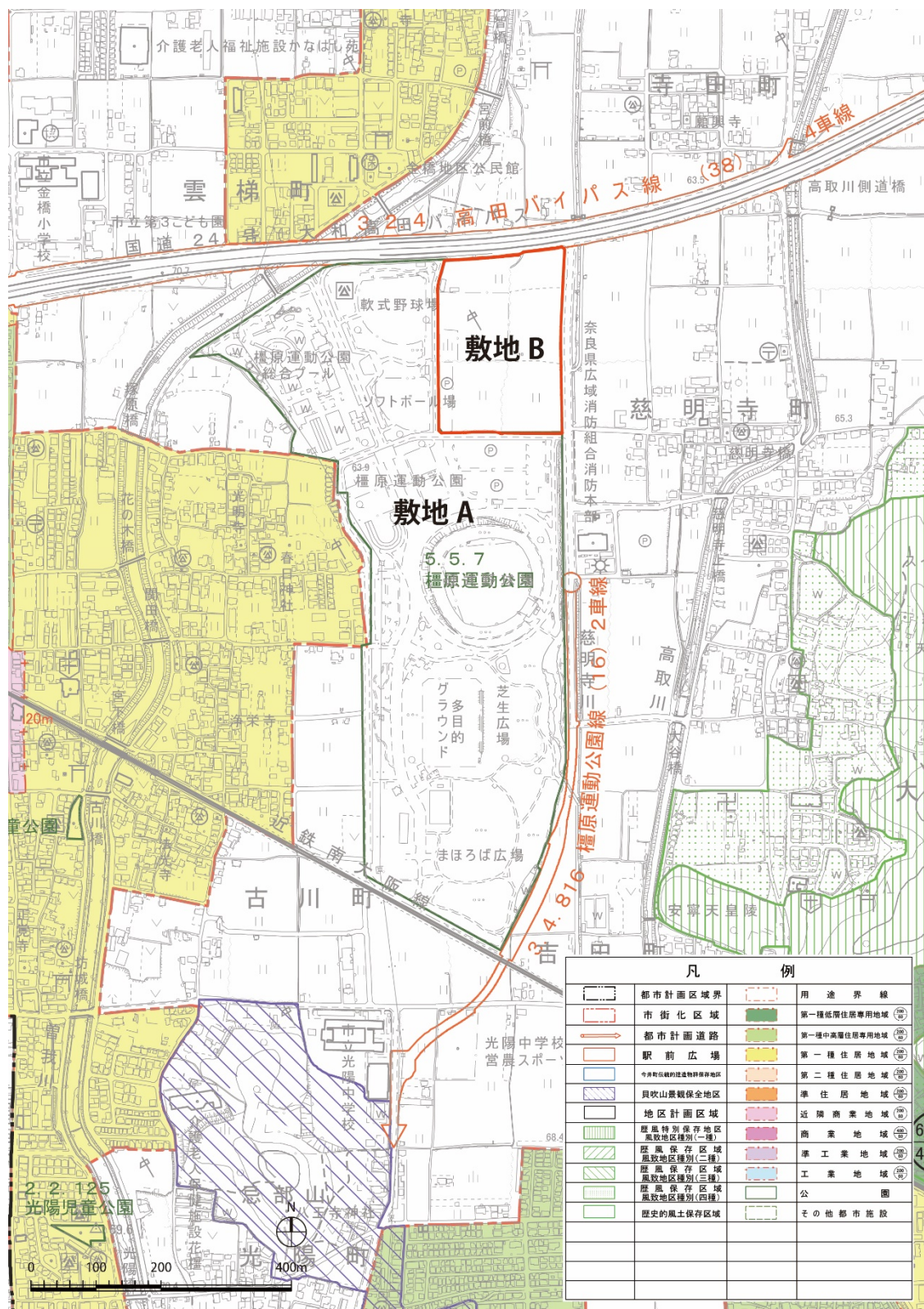
(出典) 地理院地図(国土交通省国土地理院ウェブサイト)を基に作成



## ② 檀原運動公園の用途・その他要件等

檀原運動公園(隣接エリア含む)の用途その他要件については、以下のとおりです。

【図表4】檀原運動公園の用途等



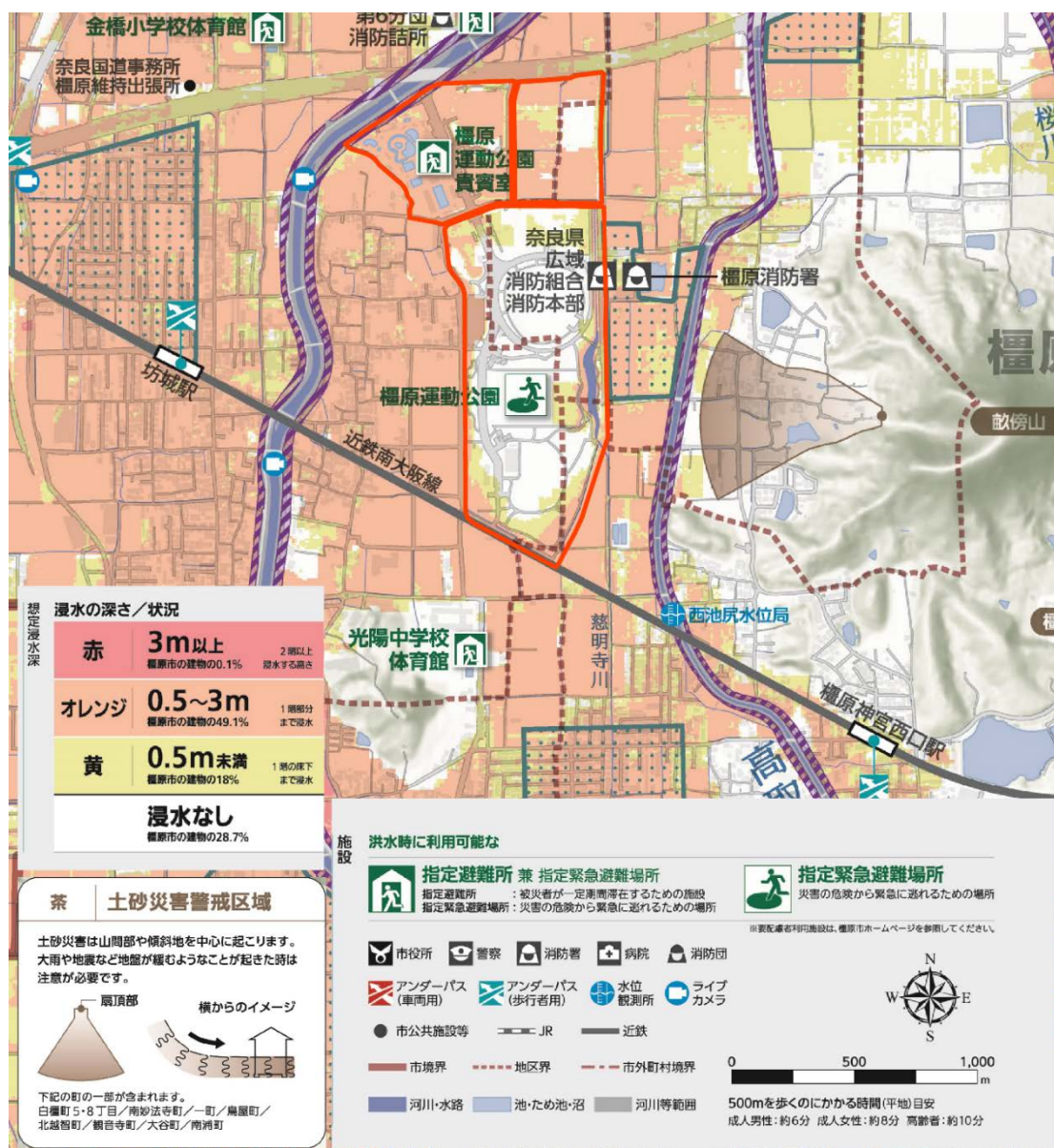
(出典)檀原市都市計画図を基に作成



	敷地A(既存橿原運動公園)	敷地B(北東区域)
敷地面積	293,667㎡	※83,300㎡
用途地域	市街化調整区域	市街化調整区域
指定建ぺい率	60%	
指定容積率	100%	
斜線制限	道路斜線 1:1.25、隣地斜線 20m+1:1.25	
日影規制	指定なし	
絶対高さ	15m以下(橿原市景観条例)	
壁面後退	指定なし	
防火指定	指定なし	
その他地域・地区	総合運動公園(都市公園) 自然風致保全エリア 景観保全型広告整備地区	自然風致保全エリア 景観保全型広告整備地区

※「北東の追加区域」における面積については国土地理院地図による CAD 計測によるものであり、実際の測量図に基づいた面積値ではありません。

【図表5】 橿原運動公園の周辺エリアのハザードマップ



(出典)「橿原市洪水ハザードマップ」を基に作成

### ③ 檀原運動公園の施設概要

檀原運動公園の施設概要は以下のとおりです。市内随一の総合運動公園としての敷地面積を有し、野球やテニス、サッカー、ラグビーなどの市や地域の大会を開催する拠点としての役割を担うとともに、ランニングやウォーキングなどの市民の健康増進拠点機能、バラ園やまほろば広場を活用した各種イベントを通じたカルチャー活動やコミュニティ活動の拠点機能を担っています。

【図表6】檀原運動公園の概要と運動施設構成

檀原運動公園			
所在地	檀原市雲梯町 323-2	敷地面積	296,081 ㎡
公園種別	総合運動公園(都市公園)	関係条例	檀原市公園条例、檀原市景観条例
施設内容	総合プール、軟式野球場、ソフトボール場、硬式野球場、庭球場、ヤタガラスフィールド(多目的グラウンド)、屋根付運動場、まほろば広場(大・小)、遊びの森、バラ園 駐車場:普通車1,042台(大型車駐車可能)		

軟式野球場			
供用開始年度	昭和 62(1987)年度	競技可能種目	軟式野球・ソフトボール
施設面積	9,652 ㎡	競技可能面数	1面(87m-100m)
付帯設備	照明設備16灯×6基(平成6年度(1994年度)供用開始)		

ソフトボール場			
供用開始年度	昭和 62(1987)年度	競技可能種目	ソフトボール
施設面積	5,302 ㎡	競技可能面数	1面(73m-75m)
付帯設備	照明設備6灯×6基(平成6年度(1994年度)供用開始)		

硬式野球場			
供用開始年度	平成 10(1998)年度	競技可能種目	硬式野球・軟式野球
施設面積	23,970 ㎡	競技可能面数	1面(100m-122m)
付帯設備	LEDスコアボード(平成30年度(2018年度)供用開始)、放送設備		

テニスコート 東(A)			
供用開始年度	平成 6(1994)年度	競技可能種目	テニス
施設面積	3,392 ㎡	競技可能面数	4面 透水型砂入り人工芝
付帯設備	照明設備 9基×2		

テニスコート 西(B・C)			
供用開始年度	平成 8(1996)年度	競技可能種目	テニス
施設面積	5,877 ㎡	競技可能面数	B:4面+半面 C:1面(センターコート) 透水型砂入り人工芝
クラブハウス (テニスコート休憩室)			
施設用途	休憩室、シャワー室、更衣室	供用開始年度	平成 8(1996)年度
施設面積	122 ㎡	構造・階数	木造 地上1階
多目的グラウンド(ヤタガラスフィールド柵原)			
供用開始年度	令和元(2019)年度	競技可能種目	サッカー、ラグビー等
施設面積	22,080 ㎡	競技可能面数	2面(各 120m-78m) JFA ロングパイル人工芝ピッチ公認
付帯設備	照明設備 LED10灯×4基 /面(令和2年度(2020年度)供用開始)		
屋根付運動場			
供用開始年度	平成 23(2011)年度	競技可能種目	フットサル等
施設面積	1,485 ㎡	競技可能面数	1面(50m-30m)
付帯設備	照明設備(20 灯)		
総合プール(閉鎖中)			
50m公認プール	施設種別:競技用プール 供用開始年度:昭和 57(1982)年度 構造:コンクリート 面積:1,075 ㎡(水面積) 競技可能種目:水泳 50m×8コース(公認:5591) 水深:1.5~1.8m		
25mプール	施設種別:競技用プール 供用開始年度:昭和 57(1982)年度 構造:コンクリート 面積:440 ㎡(水面積) 競技可能種目:水泳 25m×7 コース 水深:1.3~1.5m		
じゃぶじゃぶプール	施設種別:レジャープール 供用開始年度:昭和 55(1980)年度 構造:コンクリート 面積:540 ㎡(水面積) 水深:0.15~0.35m		
正形プール	施設種別:レジャープール 供用開始年度:昭和 55(1980)年度 構造:コンクリート 面積:508 ㎡(水面積) 水深:1.1~1.3m		
ファミリープール	施設種別:レジャープール 供用開始年度:昭和 55(1980)年度 構造:コンクリート 面積:777 ㎡(水面積) 水深:0.8~0.9m		
子どもプール	施設種別:レジャープール 供用開始年度:平成 10(1998)年度 構造:コンクリート 面積:439 ㎡(水面積) 水深:0.5~0.6m ウォータージャングル、カメスライダー		
流水プール	施設種別:レジャープール 供用開始年度:昭和 55(1980)年度 構造:コンクリート 面積:853 ㎡(水面積) 水深:0.9~1.0m		

直線スライダー	施設種別:レジャープール 供用開始年度:昭和 55(1980)年度 構造(スライダー):鉄骨造 高さ 9.0m、長さ 31.5m、すべり面 3 面 構造(着水プール):コンクリート 面積:175 m <sup>2</sup> (水面積) 水深:0.6～0.7m
ジャンボスライダー	施設種別:レジャープール 供用開始年度:昭和 63(1988)年度 構造(スライダー):鉄筋コンクリート造 すべり面 4 面(高さ 177・133・105・61m) 構造(着水プール):コンクリート 面積:136 m <sup>2</sup> (水面積) 水深:0.78～1.0m
アップヒルコースター	施設種別:レジャープール 供用開始年度:平成 10(1998)年度 構造(スライダー):鉄骨造 すべり面1面 長さ 106m 構造(着水プール):コンクリート 面積:91 m <sup>2</sup> (水面積) 水深:0.6～0.7m
スタンド棟	施設種別:スタンド棟 (施設用途)更衣室・会議室・観覧席(50m公認プール) 供用開始年度:昭和 57(1982)年度 構造:鉄筋コンクリート造 階数:地上 2 階 床面積:1,197.00 m <sup>2</sup>
更衣棟	施設種別:更衣室(レジャープール) 供用開始年度:平成 10(1998)年度 構造:鉄筋コンクリート造 階数:地上1階 床面積:809.40 m <sup>2</sup>
管理事務所棟	施設種別:管理事務所(樫原運動公園) 供用開始年度:平成 10(1998)年度 構造:鉄筋コンクリート造 階数:地上1階 床面積:477.78 m <sup>2</sup>
貴賓室	施設種別:会議室(総合プール) 供用開始年度:昭和 57(1982)年度 構造:鉄筋コンクリート造 階数:地上1階 床面積:231.76 m <sup>2</sup>

【図表7】 樫原運動公園施設配置図





### 3. 檀原運動公園の利用状況・課題及び対応事項等

#### (1) 檀原運動公園の利用状況

##### ① 檀原運動公園内施設の稼働状況

檀原運動公園内施設の稼働実績は以下のとおりです。施設により、利用人数や稼働率にばらつきや変動がありますが、令和5年度の稼働率を見ると、全ての施設で20%以上の稼働率があり、一定の需要があると考えられます。

また、多目的グラウンド(ヤタガラスフィールド檀原)は、令和元年度の人工芝へのリニューアル後は利用人数が大きく増加し、令和5年度には、リニューアル前の平成29年度に比べ、利用人数が約5.7倍になりました。また、利用料金収入についても、平成29年度時点では、多目的グラウンド(ヤタガラスフィールド檀原)の施設別収入はソフトボール場の次に小さかった一方、令和5年度には平成29年度比で約18.0倍となり、檀原運動公園の施設中で最も大きな利用料金収入を得た施設となりました。

【図表8】檀原運動公園のスポーツ施設利用実績

		平成29年度			平成30年度					
		利用人数	稼働率	利用料金	利用人数	稼働率	利用料金			
総合プール		91,413人	-	¥80,497,511	80,855人	-	¥71,305,942			
公園施設	テニスコート	35,605人	40%	¥9,802,870	31,477人	40%	¥9,492,670			
	軟式野球場	15,645人	26%	¥2,185,180	16,122人	33%	¥3,190,600			
	ソフトボール場	12,375人	15%	¥845,388	9,952人	15%	¥839,160			
	硬式野球場	24,256人	31%	¥2,611,780	22,635人	42%	¥3,179,575			
	多目的グラウンド	15,474人	22%	¥1,412,300	12,428人	32%	¥1,164,618			
	屋根付運動場	16,639人	19%	¥1,489,770	15,895人	21%	¥1,543,140			
	小計	119,994人	-	¥18,347,288	108,509人	-	¥19,409,763			
合計		211,407人	-	¥98,844,799	189,364人	-	¥90,715,705			
		令和元年度			令和2年度					
		利用人数	稼働率	利用料金	利用人数	稼働率	利用料金			
総合プール		69,731人	-	¥61,191,863	0人	-	¥0			
公園施設	テニスコート	26,806人	36%	¥8,867,530	25,115人	38%	¥8,513,827			
	軟式野球場	15,514人	34%	¥3,204,450	8,997人	22%	¥1,596,385			
	ソフトボール場	10,944人	15%	¥760,495	5,931人	13%	¥515,828			
	硬式野球場	23,235人	35%	¥2,947,090	9,224人	34%	¥1,920,480			
	多目的グラウンド	20,882人	38%	¥7,594,435	57,151人	37%	¥16,455,312			
	屋根付運動場	16,331人	35%	¥1,803,814	16,443人	42%	¥2,389,758			
	小計	113,712人	-	¥25,177,814	122,861人	-	¥31,391,590			
合計		183,443人	-	¥86,369,677	122,861人	-	¥31,391,590			
		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		利用人数	稼働率	利用料金	利用人数	稼働率	利用料金	利用人数	稼働率	利用料金
総合プール		0人	-	¥0	0人	-	¥0	0人	-	¥0
公園施設	テニスコート	26,739人	38%	¥8,586,855	29,306人	40%	¥10,150,020	30,417人	41%	¥9,902,031
	軟式野球場	10,492人	27%	¥1,869,317	8,583人	26%	¥2,027,877	10,521人	30%	¥2,112,867
	ソフトボール場	8,454人	18%	¥725,268	7,577人	20%	¥1,117,550	8,304人	20%	¥1,069,274
	硬式野球場	11,740人	35%	¥2,227,110	13,118人	38%	¥2,778,585	14,068人	36%	¥2,329,895
	多目的グラウンド	73,851人	46%	¥22,769,862	88,650人	50%	¥28,106,574	87,606人	48%	¥25,461,975
	屋根付運動場	18,707人	45%	¥2,370,458	24,235人	44%	¥2,737,642	27,813人	47%	¥2,537,171
	小計	149,983人	-	¥38,548,870	171,469人	-	¥46,918,248	178,729人	-	¥43,413,213
合計		149,983人	-	¥38,548,870	171,469人	-	¥46,918,248	178,729人	-	¥43,413,213

※：総合プールは令和2年度以降休止しているため、利用実績に係る記録はない。

## ② 橿原運動公園の主なイベント等

橿原運動公園では、年間を通して、指定管理者の自主事業によるスポーツ関連のイベントの他、奈良県・橿原市及びその他の団体が主催するスポーツ関連のイベントが開催されています。

また、これらのイベントには、スポーツ大会のようなイベントの他、フリーマーケットや、障がいのある方も楽しんでいただけるよう企画されたスポーツイベントなども含まれており、市民の方に広く参加いただけるイベントが企画・開催されています。

【図表9】 橿原運動公園の主なイベント開催実績(令和5年度)

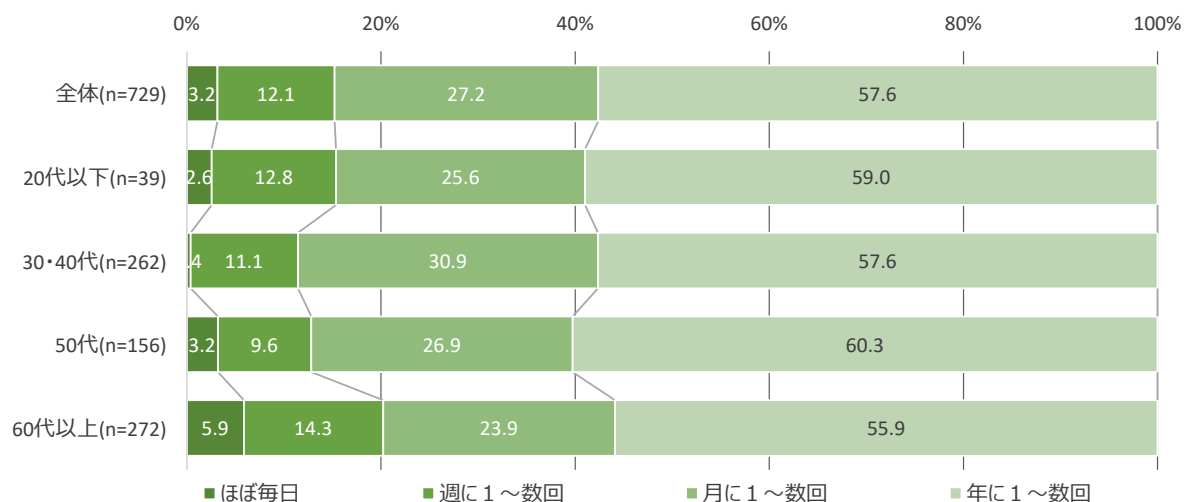
開催日	イベント名	実施主体/主催
令和5年4月23日	かしはらマラソン春	指定管理者(自主事業)
8月16日 ～19日	夏の陣 IN 橿原 2023 (全国各地の強豪街クラブ、Jリーグアカデミークラブが集まるサッカーフェスティバル)	指定管理者(自主事業)
9月18日	かしはらマラソン秋	指定管理者(自主事業)
11月 5日	飛鳥RUN×2リレーマラソン	飛鳥RUN×2リレーマラソン実行委員会 (構成団体: 橿原市・(公社)橿原市スポーツ協会 他)
1月28日	畝傍山一円クロスカントリー大会	(公社)橿原市スポーツ協会
3月 2日	市町村対抗子ども駅伝大会	市町村対抗子ども駅伝大会実行委員会 (共催: 奈良県、39市町村、(公財)奈良県スポーツ協会)
3月17日	スポーツEXPOinヤタガラスフィールド橿原 (障がいのある人もない人も一緒にニュースポーツやヨガ、ウォーキングフットボールなどを人工芝の上で楽しむイベント)	橿原市スポーツコミッション・橿原市
5回/年	フリーマーケット	指定管理者(自主事業)

### ③ 榎原運動公園の利用頻度

現在の榎原運動公園を利用するおおよその頻度について、全体では「年に1～数回」が6割弱で最も多く、次いで「月に1～数回」が3割弱、「週に1～数回」が約1割であり、「ほぼ毎日」利用する人は3%程度にとどまっています。

年代別にみると、いずれの年代においても「年に1～数回」が6割前後で最も多い状況です。また、割合は少ないものの60代以上では「ほぼ毎日」(5.9%)、「週に1～数回」(14.3%)と利用頻度の多い人が他の年代に比較して若干多くなっています。

【図表10】 市民アンケートより 榎原運動公園利用頻度

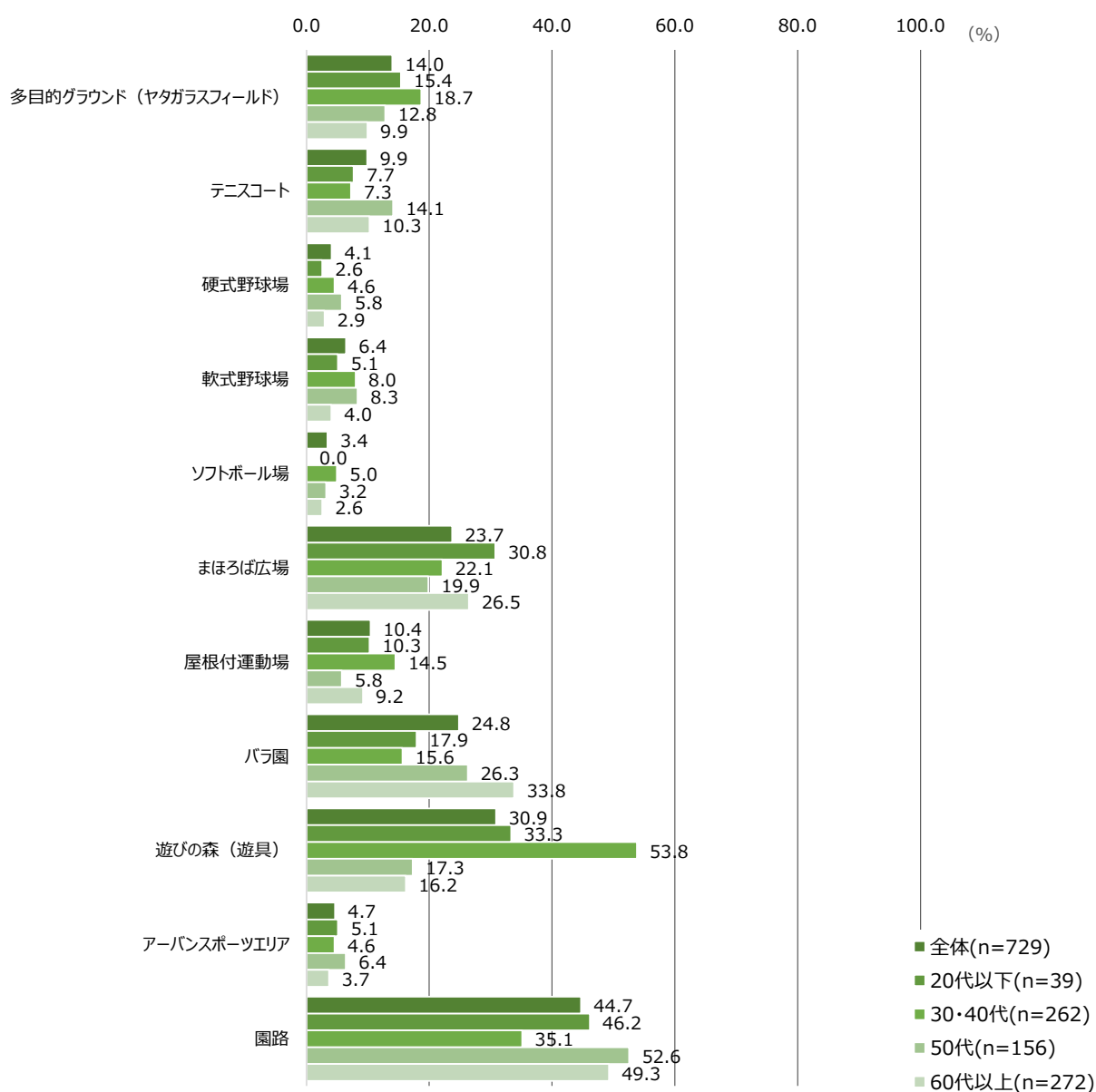


#### ④ 檀原運動公園の利用施設

現在の檀原運動公園で定期的に利用する施設について、全体では「園路」が4割強で最も多く、「遊びの森」が3割程度、「バラ園」「まほろば広場」が2割強となっています。一方、「テニスコート」「軟式野球場」「アーバンスポーツエリア」「硬式野球場」「ソフトボール場」を定期的に利用すると回答した人は1割以下にとどまりました。

年代別にみると、20代以下と50代、60代以上では「園路」が4～5割程度で最も多いものの、30・40代の子育て世代では「園路」は3割台にとどまり、「遊びの森」が約5割で最も多くなっています。50代、60代以上では「バラ園」が3割前後でそれぞれ2番目に多い状況です。いずれの年代においても「硬式野球場」「軟式野球場」「ソフトボール場」は1割未満と定期的に利用する人は少ない状況がうかがえます。

【図表11】 市民アンケートより 檀原運動公園の定期的利用施設

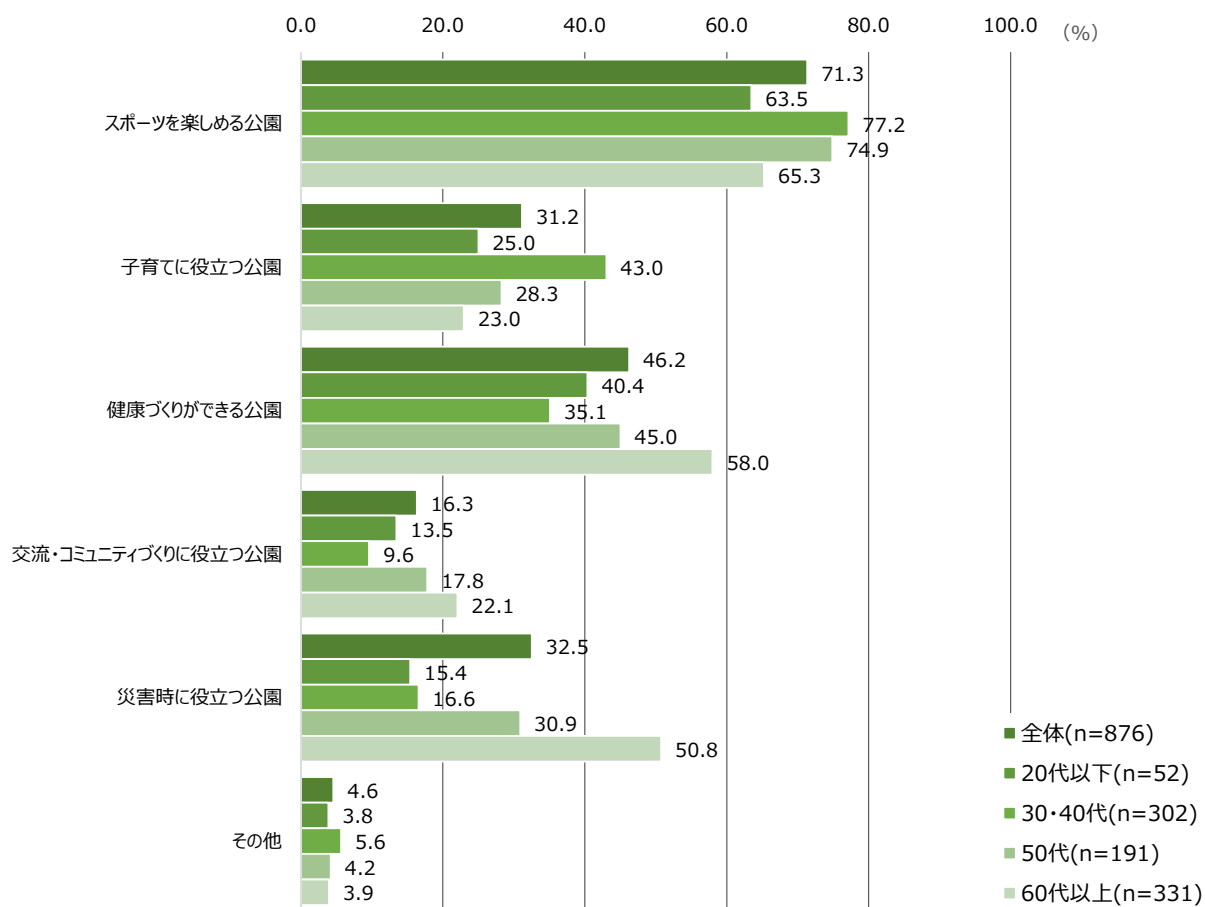


## ⑤ 檀原運動公園に対する市民のイメージ

現在の檀原運動公園のイメージについて、全体では「スポーツを楽しめる公園」が7割程度で最も多く、次いで「健康づくりができる公園」が5割弱、「災害時に役立つ公園」「子育てに役立つ公園」がともに3割程度、「交流・コミュニティづくりに役立つ公園」が2割弱となっています。

年代別にみると、子育て中の人がある一定数いると思われる30・40代では「子育てに役立つ公園」が4割強で他の年代より多く、50代、60代以上では「健康づくりができる公園」「災害時に役立つ公園」の回答が多くなっています。

【図表12】市民アンケートより 檀原運動公園のイメージ

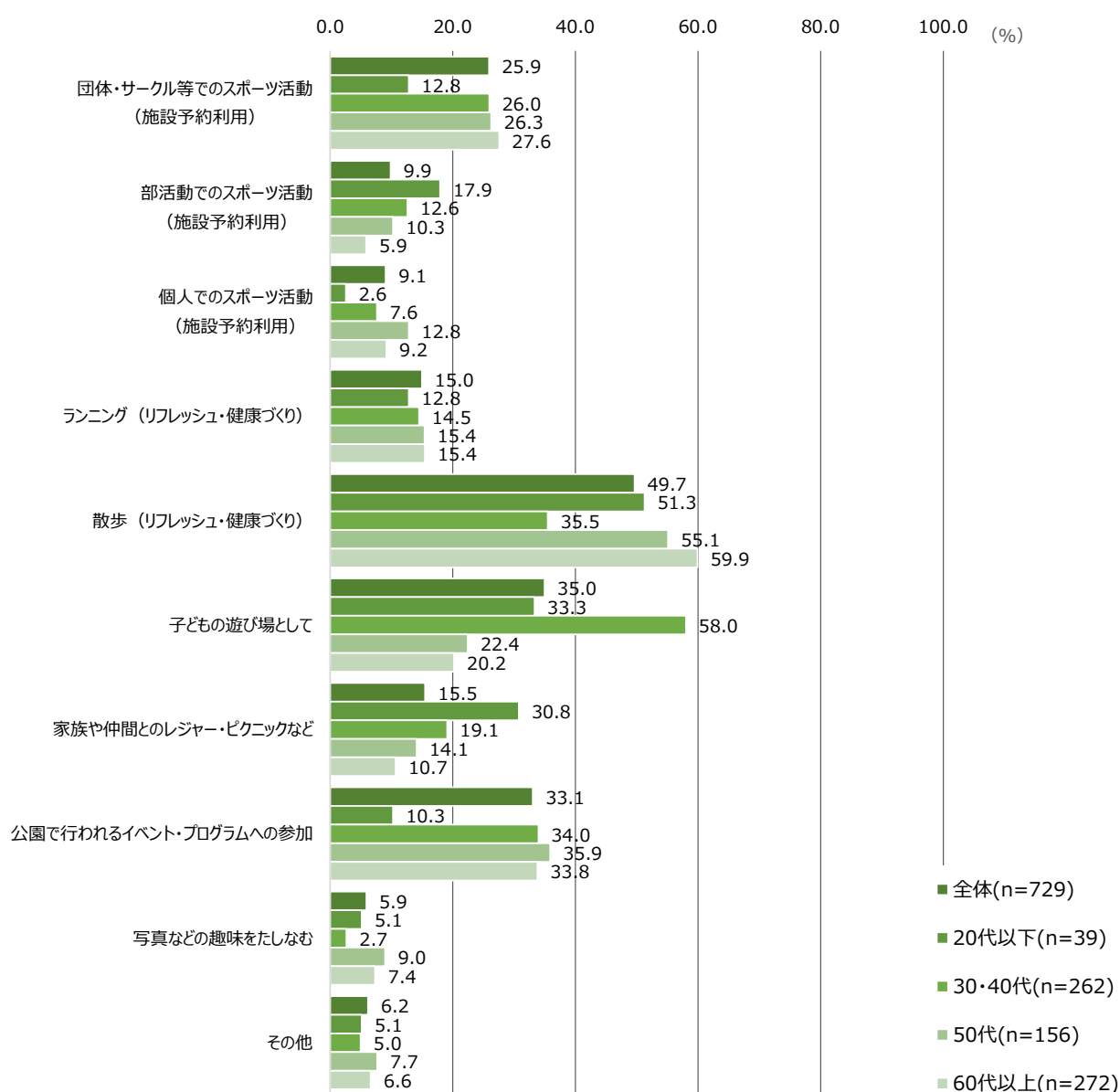


## ⑥ 檀原運動公園の利用シーン

現在の檀原運動公園の主な利用目的について、全体では「散歩」が約5割程度で最も多く、「子どもの遊び場として」「公園で行われるイベント・プログラムへの参加」「団体・サークル等でのスポーツ活動」が3割前後、「家族や仲間とのレジャー・ピクニックなど」「ランニング」が2割弱で続く一方、「部活動でのスポーツ活動」「個人でのスポーツ活動」は1割弱と少ない状況です。

年代別にみると、20代以下と50代、60代以上では「散歩」での利用が5～6割で最も多いですが、30・40代では「散歩」は3割程度にとどまり、「子どもの遊び場として」が6割程度と最も多くなっています。施設予約をとまなう「団体・サークル等でのスポーツ活動」の利用は30代以上の年代で3割弱程度みられるものの、施設予約をとまなう「個人でのスポーツ活動」は1割前後にとどまっています。

【図表13】 市民アンケートより 檀原運動公園の利用目的





## (2) 榎原運動公園の課題

### ① 施設設備の老朽化

榎原運動公園の施設設備の老朽化について、市民アンケートで以下のような意見があげられました。

【図表14】市民アンケート 榎原運動公園施設設備の老朽化に関する意見

施設設備等	おもな意見
グラウンド	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ソフトボール場・少年野球場が古い</li><li>・ グラウンドがガタガタなので整地してほしい</li><li>・ テニスコートの表面がつぎはぎだらけになっているので整備してほしい</li><li>・ ソフトボール場が雑草まみれでまったく整備されていない</li></ul>
トイレ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ シャワー付きトイレの温水が出ない、便座が冷たいなど故障箇所が多い</li><li>・ 中から施錠できないトイレがあった</li></ul>
遊具	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 遊具が少し古い</li><li>・ 一部遊具の老朽化が進んでいる</li></ul>
ベンチ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 屋根付きベンチなど老朽化しているところがある</li></ul>
園路	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 園路が傷んでいて自転車走行やランニング時に滑って危険</li></ul>

### ② 現行の施設設備機能の不足・不便

榎原運動公園の施設設備に不足する機能や不便な部分について、市民アンケートで以下のような意見があげられました。

【図表15】市民アンケート 榎原運動公園施設設備の不足・不便に関する意見

施設設備等	おもな意見
トイレ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ トイレが少ない、数を増やしてほしい</li><li>・ トイレが汚い、きれいで使いやすくしてほしい</li><li>・ おむつ交換台があるトイレを増やしてほしい</li><li>・ もう少し朝早い時間帯もトイレを使えるようにしてほしい</li></ul>
休憩場所・日陰・屋根	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 屋根付きの休憩場所が少ない、日陰がもう少し欲しい</li><li>・ ベンチが少ない</li><li>・ 屋根のある場所が少なく夏の日差しを避けにくい</li><li>・ 夏場のミストシャワーを各所に</li><li>・ 日陰など安全に休むスペースが少ないので夏は暑すぎて利用しにくい</li></ul>
雨天対応・屋根	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 雨天時に利用できる施設が少ない</li><li>・ 雨の日にも利用できる屋根付きエリアがほしい</li><li>・ 屋根付きの広くて明るい多目的スペースでゆっくりできるとよい</li><li>・ 雨でもプレイできるようテニスコートに屋根をつけてほしい</li></ul>
公園へのアクセス	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 駅から遠い、交通の便が悪い、車がなければ行く手段がない</li><li>・ 公共交通機関がないので若者が集まりにくい</li><li>・ 高齢者も利用できるための交通手段の整備を望む</li><li>・ 運動公園までの道が複雑でなるべく行きたくない</li></ul>
駐車場	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 駐車場が少ない、拡充が必要</li><li>・ 駐車場が複雑すぎる、駐車場がバラバラにあって迷う</li><li>・ 駐車場の白線が薄い、進入路がわかりにくい</li><li>・ 駐車場がたくさんあり広いのでもう少し案内看板が欲しい</li></ul>

観覧席・スタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 硬式野球場・サッカー場に屋根付きスタンド席がほしい</li> <li>・ スタンドがないので高校野球も観戦しにくく誘致できない</li> <li>・ 立派な硬式野球場があるのにスタンドがなく利用価値が乏しい</li> </ul>
照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 硬式野球場に照明設備がない</li> <li>・ テニスコートにナイターできる面を増やしてほしい</li> </ul>

### ③ 需要と供給の不整合

檀原運動公園施設設備の需給と供給の不整合について、市民アンケートで以下のような意見があげられました。

【図表16】市民アンケート 檀原運動公園施設設備需要と供給の不整合に関する意見

施設設備等	おもな意見
プール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プールが利用できなくなり、残念、子どもたちが寂しがっている</li> <li>・ ファミリーで楽しめるプールをまたつくってほしい</li> <li>・ 子どもたちや若者の楽しみの場であったプールを再開してほしい</li> <li>・ 夏一番のレジャーとして楽しみにしていたので再開してほしい</li> <li>・ 健康促進やコミュニティの場として檀原市内にプールは必要</li> <li>・ 体育館整備時に温水プールや競技用プールを併設してほしい</li> <li>・ 今後どうなるのか、営業しないなら早く撤去すべき</li> </ul>
子どもの遊び場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちが遊べる面白い遊具が少ない、遊具を増やしてほしい</li> <li>・ もっと子どもがわくわくするような遊具が欲しい</li> <li>・ 子どもがより楽しめる大型遊具が欲しい</li> <li>・ 大型遊具を設置して子どもがまた行きたくなるような整備をしてほしい</li> <li>・ 室内遊具も欲しい、屋根付き場所の遊具や種類も増えてほしい</li> <li>・ 水遊びできる噴水がほしい</li> <li>・ 子ども向けのサイクリングコースがあるとよい</li> </ul>
体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育館がない、体育館の活動に参加したい</li> <li>・ 大きな体育館がほしい</li> <li>・ 大きな体育館あると色んなスポーツができるのに</li> <li>・ 3,000人収容規模の体育館があれば観戦のみならず周辺も賑わう</li> </ul>
運動器具・施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動器具を備えた施設を作ってほしい</li> <li>・ 懸垂運動する鉄棒設備や健康器具などもあるとよい</li> <li>・ ジムの建物がない、ジム施設があれば年中賑わうのではないかな</li> </ul>
アーバンスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スケートパーク施設がないので十分な活動ができない</li> <li>・ スノボーやBMX、ボルダリングができる場所もあるとよい</li> <li>・ アーバンスポーツエリアにジャンプ台がないので競技を楽しめない</li> </ul>
ランニングコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フラットに舗装されたランニングコースがほしい</li> <li>・ 専用でなくてもいいのでランニングコースのようなものがあるとよい</li> <li>・ 園路がランニングに適した舗装・設計として整備されるとよい</li> </ul>
便益施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弁当や軽食を買えるコンビニ・売店等が欲しい</li> <li>・ カフェなどゆっくり過ごせる施設があるとよい</li> <li>・ カフェや飲食スペースがあればコミュニケーションの場所になる</li> <li>・ 便益施設がないので多様な人達が集まる賑わい拠点になっていない</li> </ul>
犬の遊び場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犬の散歩コース、遊び場を作ってほしい、ドックランがあるとよい</li> <li>・ ペット専用場所がない</li> </ul>

【図表17】 檀原運動公園の課題



(出典) 国土地理院地図を基に作成

### (3) 榎原運動公園の対応事項等

#### ① 上位関連計画における今後の方針等

榎原運動公園内のスポーツ施設については、「榎原市スポーツ施設計画」(令和4年3月)において、それぞれの施設整備方針が示されており、榎原運動公園の再整備において本計画を着実に推進することが求められます。

【図表18】「榎原市スポーツ施設計画」(令和4年3月)榎原運動公園内スポーツ施設の整備方針

No	施設名		1次評価		2次評価	適用手法	
			施設の方向性	施設の整備手法	基本方針		
1	榎原運動公園	総合プール(レジャープール)	改廃	再整備又は廃止	総量コントロール	施設の方向性が「改廃」であり、政策優先度も「低」の評価であることから「廃止」が妥当と考えられる	廃止
		総合プール(競技用プール)	改廃	再整備又は廃止	総量コントロール	施設の方向性が「改廃」であり、政策優先度も「低」の評価であることから「廃止」が妥当と考えられる	廃止
		軟式野球場	改善	機能改修	機能保持	施設の方向性が「改善」であり、政策優先度が「高」の評価であることから、「機能改修」や「維持管理の効率化」を図っていくことが妥当と考えられる	機能改修・維持管理の効率化
		ソフトボール場	改善	機能改修	総量コントロール	施設の方向性が「改善」であり、政策優先度が「低」の評価であることから、「集約化」を図っていくことが妥当と考えられる	集約化
		硬式野球場	維持	長寿命化	機能保持	施設の方向性が「維持」であり、政策優先度が「高」の評価であることから「長寿命化」や「維持管理の効率化」を図っていくことが妥当と考えられる	長寿命化・維持管理の効率化
		テニスコート	維持	長寿命化	機能保持	施設の方向性が「維持」であり、政策優先度が「高」の評価であることから「長寿命化」や「維持管理の効率化」を図っていくことが妥当と考えられる	長寿命化・維持管理の効率化
		多目的グラウンド(ヤタガラスフィールド榎原)	維持	長寿命化	機能保持	施設の方向性が「維持」であり、政策優先度が「高」の評価であることから「長寿命化」や「維持管理の効率化」を図っていくことが妥当と考えられる	長寿命化・維持管理の効率化
		屋根付運動場	維持	長寿命化	機能保持	施設の方向性が「維持」であり、政策優先度が「高」の評価であることから「長寿命化」や「維持管理の効率化」を図っていくことが妥当と考えられる	長寿命化・維持管理の効率化

また、榎原運動公園は、「榎原市地域防災計画」(平成29年3月)に紐づけられる「指定避難場所」「緊急指定避難場所」に指定されており、再整備を契機としてさらに充実した災害対策機能を保持することが求められます。

#### 指定避難場所:榎原運動公園貴賓室

災害などで避難された方が、災害の危険がなくなるまで必要な期間滞在したり、災害により自宅へ戻れなくなった被災者の方が一時的に滞在する施設

#### 指定緊急避難場所:榎原運動公園、榎原運動公園貴賓室

洪水・地震などの災害が発生、または発生するおそれがある場合にその危険から命を守るために、緊急的に避難する場所

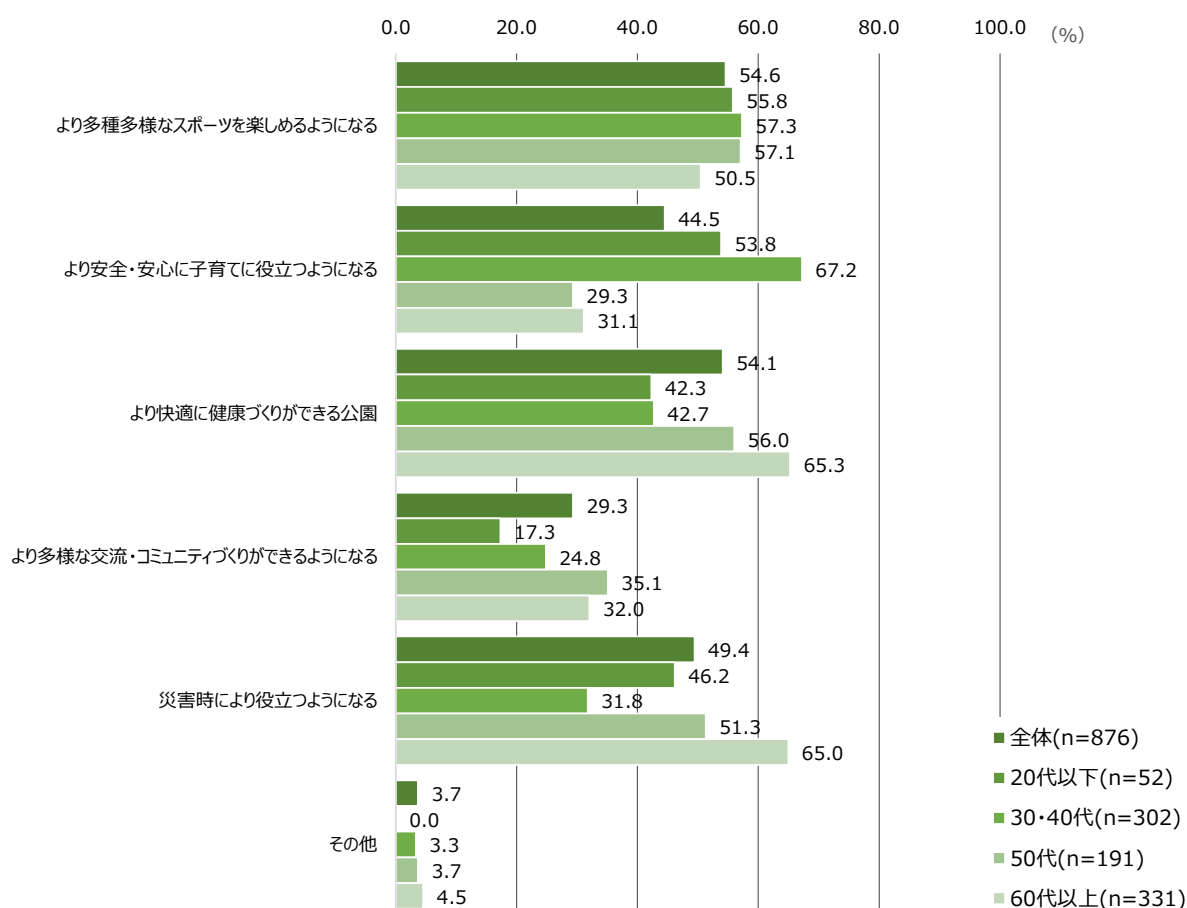
## ② 檀原運動公園に望む将来シーン

将来の檀原運動公園がどうなってほしいと思うかについて、全体では「より多種多様なスポーツを楽しめるようになる」「より快適に健康づくりができる公園」がともに5割強、「災害時により役立つようになる」「より安全・安心に子育てに役立つようになる」が5割弱で続く一方、「より多様な交流・コミュニティづくりができるようになる」は3割程度と他の選択肢に比べて低い割合となっています。

年代別にみると、20代以下、50代、60代以上では「より多種多様なスポーツを楽しめるようになる」「より快適に健康づくりができる公園」「災害時により役立つようになる」の3つが 5 割弱～6 割強と高い数値となっていますが、子育て中が多いと考えられる30・40代では、「より安全・安心に子育てに役立つようになる」が 7 割近くにのぼり、他の選択肢との差が大きくなっています。60代以上では「スポーツ」より「健康づくり」「災害時」対応により大きな期待が寄せられています。

なお、「その他」の内容としては、武道場やジム、スタジアムなどスポーツ設備を望む声がありました。また「季節の花を増やしてほしい」「デートスポットになるようなお洒落な公園に」「より気軽に使えるように」「誰でも気軽に行きやすい場になるとよい」など利用のしやすさや雰囲気に関する意見、「多様なアクセス方法により利用しやすい公園に」「交通の便をよくしてほしい」といったアクセス面での希望などがあげられました。

【図表19】市民アンケートより 将来の檀原運動公園への希望





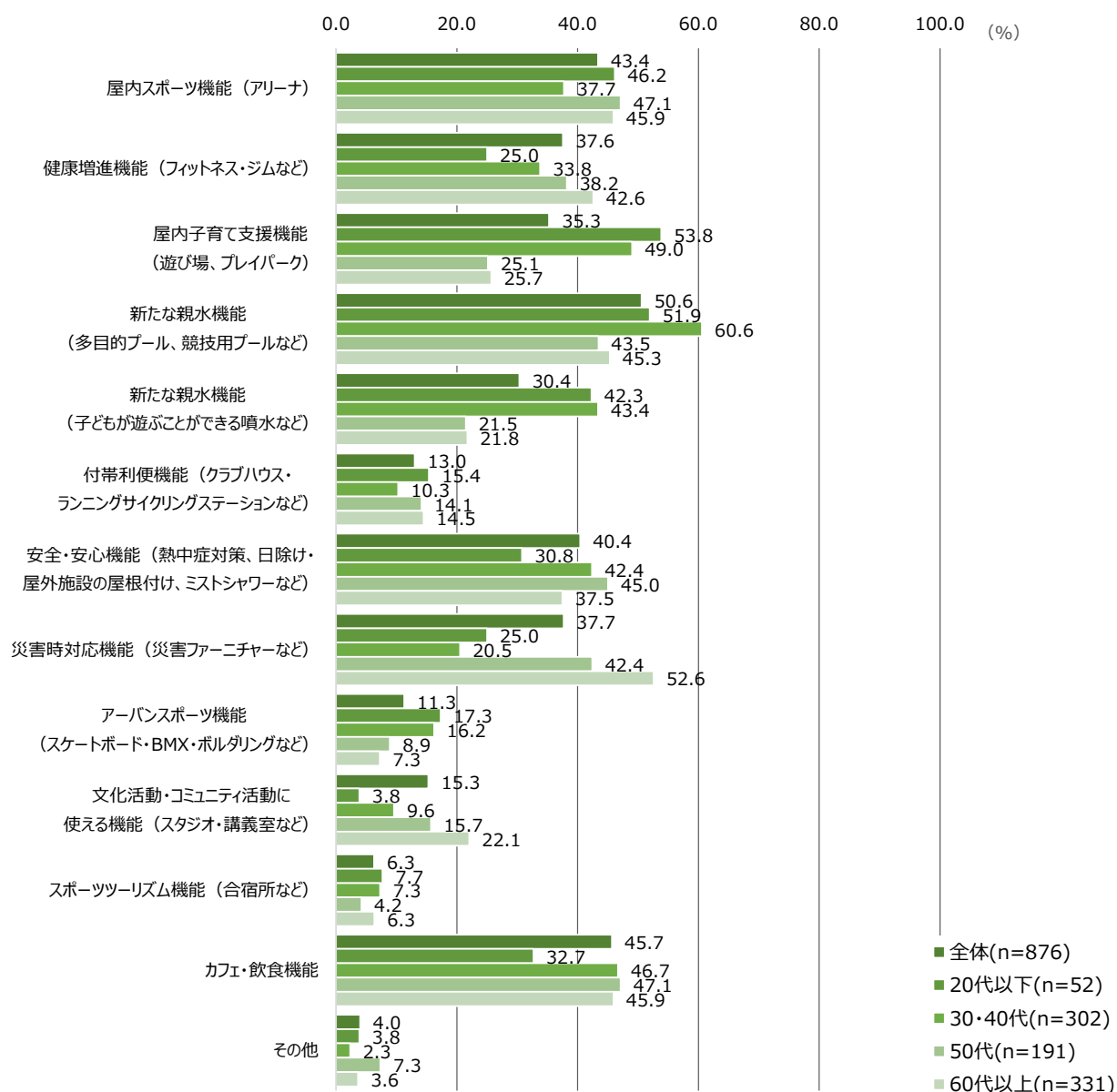
### ③ 檀原運動公園に新たに望む機能

将来の檀原運動公園に新たに望む機能について、全体では「新たな親水機能(多目的プール、競技用プールなど)」「カフェ・飲食機能」が約5割、「屋内スポーツ機能」「安全・安心機能」が4割強、「災害時対応機能」「健康増進機能」「屋内子育て支援機能」「新たな親水機能(子どもが遊ぶことができる噴水など)」がいずれも3割から4割弱の回答となっている一方、「文化活動・コミュニティ活動に使える機能」「付帯利便機能」「アーバンスポーツ機能」「スポーツツーリズム機能」は1割前後と他に比して低い傾向がみられます。

年代別にみると、「新たな親水機能(多目的プール、競技用プールなど)」「カフェ・飲食機能」「屋内スポーツ機能」はいずれの年代においても多く望まれています。60代以上では「災害時対応機能」が最も多くなっています。30・40代では「新たな親水機能(多目的プール、競技用プールなど)」が約6割、「屋内子育て支援機能」が約5割と上位にあげられ、災害時対応機能への希望は2割程度にとどまっています。

「その他」の回答としては、武道場やサッカー専用スタジアム、プロ野球観戦できる球場、屋内プール、バーベキュー施設、ドッグラン、防災グッズ収納ベンチ、図書館、温浴施設などがあげられました。

【図表20】市民アンケートより 将来の檀原運動公園に新たに望む機能





#### ④ 社会情勢・環境変化等への対応と政策連動

近年、都市公園の価値の広がりが見えなくなっており、都市公園が市民等の豊かなくらしづくりにより深く、より広く関与していく様々な概念が生まれてきています。

【図表21】「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会」(令和4年・国土交通省都市局)

##### 「都市公園新時代 ～公園が活きる、人がつながる、まちが変わる～」

###### <基本的考え方>

- 都市公園は、ポストコロナの新たな時代において、人中心のまちづくりの中で個人と社会の「Well-being」の向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、多機能性のポテンシャルを更に発揮することが求められている。
- このため、新時代の都市公園は、パートナーシップの公園マネジメントで多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指すべきである。

###### <重点的な戦略>

- 「使われ活きる公園」の実現のため、従来の公園整備・管理運営から、3つの変革が必要。

※3つの変革:「まちの資産とする」、「個性を活かす」、「共に育て共に創る」

- 具体的には、以下の3つの重点戦略に基づき、7つの具体的取組を推進することが重要。

重点戦略【1】新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの「場」とする(施策の方向性)

①グリーンインフラとしての保全・利活用 ②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり

重点戦略【2】しなやかに使いこなす「仕組み」ととのえる(施策の方向性)

③利用ルールの弾力化 ④社会実験の場としての利活用

重点戦略【3】管理運営の「担い手」を広げ・つなぎ・育てる(施策の方向性)

⑤担い手の拡大と共創 ⑥自主性・自律性の向上

横断的方策としての「公園 DX」(施策の方向性)

⑦デジタル技術とデータの利活用

【図表22】「みんなが遊べる、みんなで育てる都市公園の遊び場づくり事例集」(令和6年・国土交通省都市局)

##### 「みんなが遊べる、みんなで育てる 都市公園の遊び場づくり参考事例集」 「はじめに」から一部抜粋

子どもにとって遊びは楽しさをもたらすものであるとともに健やかな成長の原点であり、遊びを通じて様々な体験をすることで、身体的、精神的、社会的な成長につながるなど、遊びはすべての子どもにとって必要不可欠なものである。

都市公園の遊び場は、子どもに遊びの機会を提供しており、子どもの成長を支える役割の一端を担っている。本来、都市公園の遊び場は、子どもの能力や特性、背景などにかかわらず、あらゆる子どもに開かれたものであるが、一方で、障害のある子どもやその家族などからは、物理的・心理的障壁により、都市公園の遊び場で遊ぶことへの難しさや負担を感じるといった声もよせられている。こうした背景から、近年、都市公園において、だれもが遊べるいわゆるインクルーシブな遊び場の整備が進められている。

(中略)

都市公園の遊び場において、だれもが楽しく遊べるためには、子どもをはじめとした多様な主体に意見を聴き、遊び場づくりを共に進めていくことが重要である。今回、いわゆるインクルーシブな遊び場等の取組事例について、参考となる国内や海外の事例をふまえ、『みんなが遊べる、みんなで育てる都市公園の遊び場づくり事例集』としてとりまとめた。

遊び場の整備などハード面だけではなく、整備に至るプロセスや、遊び場整備後の管理運営・利用 促進にも留意することが重要であり、本事例集を参考に各公園管理者が遊び場づくりに積極的に取り組み、都市公園の遊び場が一層充実していくことを期待する。

●ウェルビーイング:

個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること。

Well-being のためには、「ポジティブな感情」「エンゲージメント」「良好な人間関係」「意味・目的」「達成感」の要素を高めることが重要(「ポジティブ心理学の挑戦」マーティン・セリグマン、2014)とされている。

●インクルーシブ:

あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」「すべての人が共生する」こと。

## 4. 榎原運動公園整備に関連する公共スポーツ施設再編に係る主要動向整理

### (1) 中央体育館の再整備

#### ① 上位関連計画における今後の方針等

中央体育館は、「榎原市スポーツ施設計画」(令和4年3月)において、「建替再整備」の方針が位置づけられ、可能な限り早い時期での建替えが求められています。総合運動公園として多様なスポーツ活動拠点機能を有する榎原運動公園の再整備にあたり、中央体育館の再整備の受け皿となることが期待されます。

【図表23】「榎原市スポーツ施設計画」(令和4年3月)中央体育館の整備方針

施設 2	中央体育館
施設 2 - 1	アリーナ
1 次評価	施設の方向性⇒改廃 施設の整備手法⇒再整備又は廃止
2 次評価	政策優先度⇒高 基本方針⇒機能保持
適用手法	<b>建替再整備</b> ・現状の体育館の使用状況、中央体育館の持つ役割の重要性を考慮し、建替再整備を適用手法とする。なお、中央体育館は老朽化により著しく劣化した状態にあるため、10 年以内に可能な限り早い時期での建替えを目指す。  ◆スケジュール ・2022 年度～2023 年度 建替に向けた調整 ・2024 年度～2025 年度 計画・設計 ・2026 年度 撤去 ・2027 年度 新設

また、中央体育館は、「榎原市地域防災計画」(平成 29 年 3 月)に紐づけられる「指定避難場所」「緊急指定避難場所」に指定されており、再整備後においても同様以上の災害対策機能を保持することが求められます。

指定避難場所:中央体育館

災害などで避難された方が、災害の危険がなくなるまで必要な期間滞在したり、災害により自宅へ戻れなくなった被災者の方が一時的に滞在する施設

指定緊急避難場所:中央体育館

洪水・地震などの災害が発生、または発生するおそれがある場合にその危険から命を守るために、緊急的に避難する場所

## ② 橿原市中央体育館の稼働状況

橿原市中央体育館(アリーナ)の施設利用実績は以下のとおりです。

令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染症の流行により利用人数が落ち込みましたが、令和4年度から増加傾向に転じ、令和5年度には、年間利用者数が45,802人(稼働率93%)と、平成29年度以降で最大になっており、安定的かつ大きな需要があることが伺えます。

【図表24】橿原市中央体育館(アリーナ)の施設利用実績

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用人数	41,152人	42,326人	40,185人
稼働率	—	—	—
利用料金	¥2,262,510	¥2,175,940	¥1,908,720

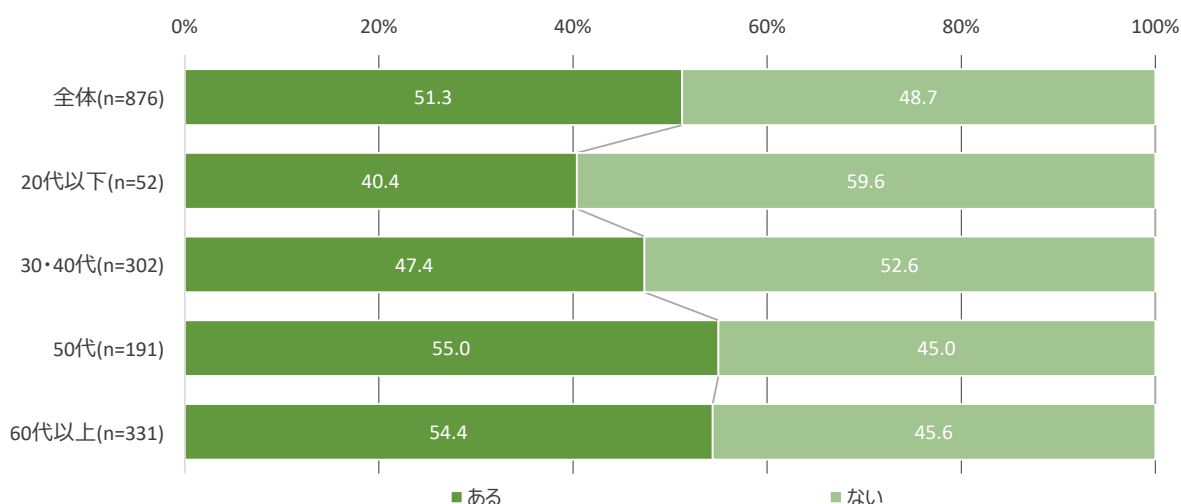
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用人数	28,693人	14,317人	30,850人	45,802人
稼働率	—	—	74%	93%
利用料金	¥1,993,980	¥974,170	¥2,020,380	¥2,502,800

※：稼働率は、指定管理移行後の令和4年度以降のみ算出。

## ③ 橿原市中央体育館の利用シーン等(市民アンケート結果)

橿原市中央体育館を利用したことがあるかについて、全体では「ある」と「ない」がおおむね5割ずつの結果となっています。年代別にみると、20代以下では利用したことのない人が約6割にのぼります。

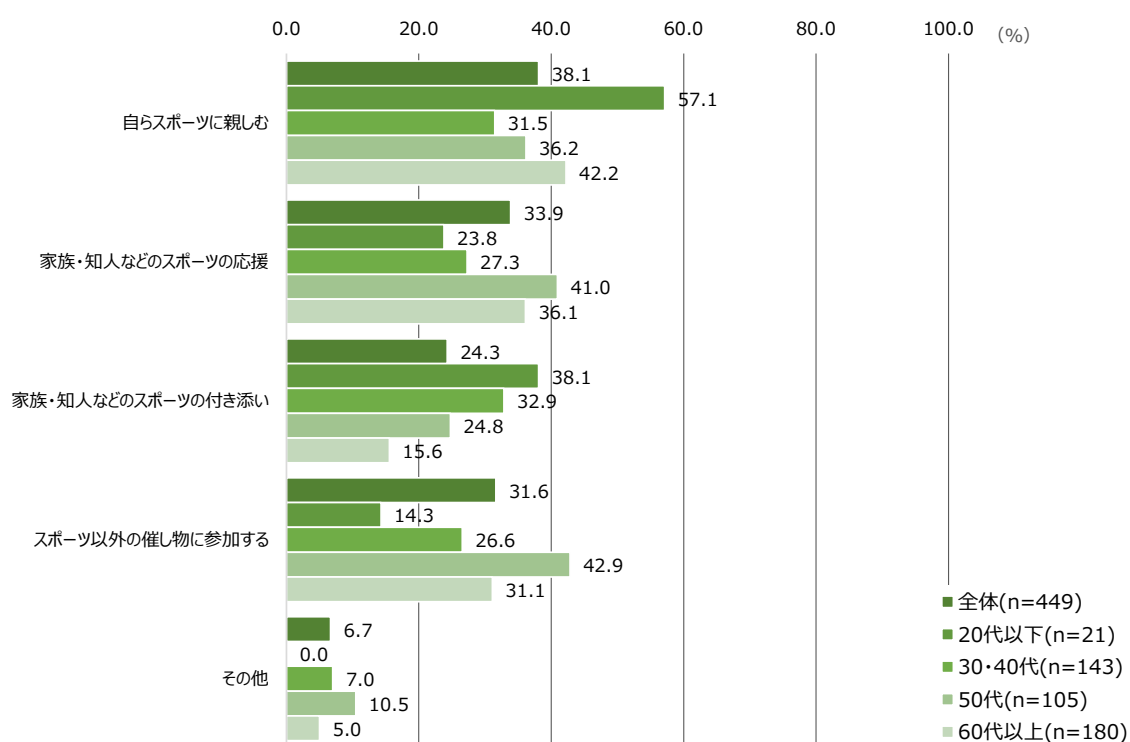
【図表25】市民アンケートより 橿原市中央体育館利用有無



橿原市中央体育館の主な利用目的について、全体では「自らスポーツに親しむ」が4割弱で最も多く、「家族・知人などのスポーツの応援」「スポーツ以外の催し物に参加する」が3割程度、「家族・知人などのスポーツの付き添い」が2割強となっています。

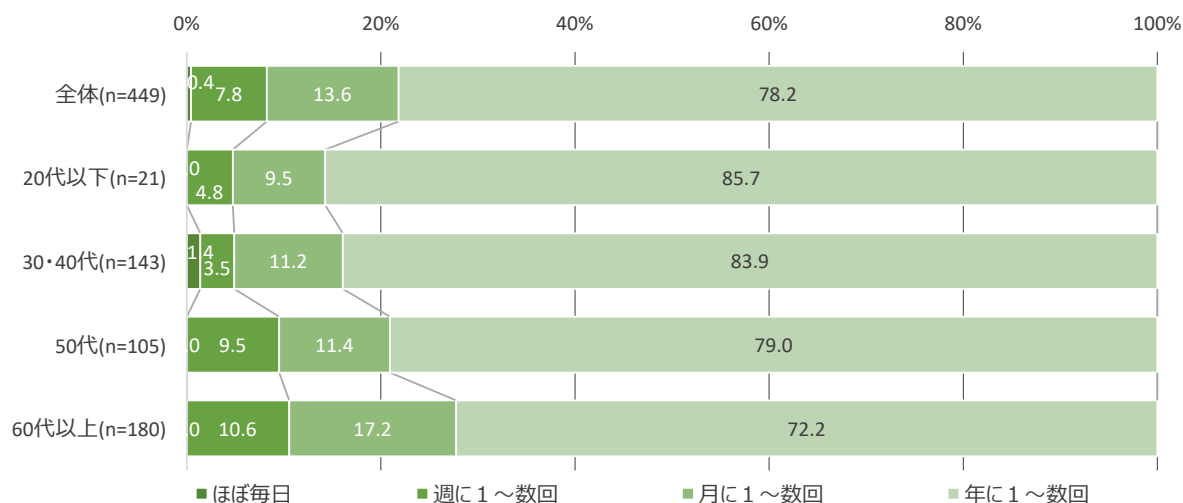
「その他」の内容では、運動会など学校行事や子どもの発表会、スポーツイベント、選挙、ワクチン接種での利用があげられました。

【図表26】 市民アンケートより 橿原市中央体育館利用目的



橿原市中央体育館の利用頻度について、全体では「年に1～数回」が約8割、「月に1～数回」「週に1～数回」がともに1割前後であり、「ほぼ毎日」利用していた人は1%に満たない結果となっています。

【図表27】 市民アンケートより 橿原市中央体育館利用頻度



#### ④ 檀原市中央体育館の課題

##### a)施設設備の老朽化・安全性の懸念

檀原市中央体育館施設設備の老朽化について、市民アンケートで以下のような意見があげられました。

【図表28】市民アンケート 檀原市中央体育館施設設備の老朽化に関する意見

施設設備等	おもな意見
全体・照明等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設や内装全てにおいて古くて暗い</li> <li>・ ロビー・ホール・エレベーターなどが暗い、怖い</li> <li>・ 照明が暗い、切れている照明もある</li> </ul>
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレが古い、汚い、くさい</li> <li>・ 不潔なので利用を控えたい</li> <li>・ 古くて和式なので使いづらい</li> </ul>
空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空調が古い</li> <li>・ 空調が効きにくい、しっかり効くようにしてほしい</li> <li>・ 空調は装備されているがほとんど効いていない感じがする</li> </ul>

##### b)施設設備機能の不足・不便

檀原市中央体育館施設設備に不足する機能や不便な部分について、市民アンケートで以下のような意見があげられました。

【図表29】市民アンケート 檀原市中央体育館施設設備機能の不足・不便に関する意見

施設設備等	おもな意見
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレが少ない、個室が狭い</li> <li>・ 洋式が少ない、子どもが利用しにくい</li> <li>・ 授乳スペースがない、子連れで利用しにくい</li> <li>・ 競技服でも利用しやすいよう個室に広さがほしい</li> </ul>
空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空調が効きづらく夏は暑くて冬は寒い</li> <li>・ 空調完備が難しければ送風機能を付けてほしい</li> <li>・ 複層ガラスなど冷暖房の断熱に配慮してほしい</li> <li>・ 扉を開けない換気方法を検討してほしい</li> </ul>
規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観客席が少ない、狭い</li> <li>・ 檀原市の一番大きな体育館でありながら小さくてお粗末</li> <li>・ 県下第二の都市の体育館としては恥ずかしい</li> <li>・ あまり大きくもない中途半端な施設</li> </ul>
バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 階段が多い、バリアがありすぎる</li> <li>・ 入り口までに階段があるので高齢者などが利用しにくい</li> <li>・ バリアフリー機能を備えないと皆が平等に使えない</li> </ul>
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車台数が十分でない</li> <li>・ 第二駐車場が遠くて不便</li> </ul>
予約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者が多く予約がとれない、施設使用予約が競争のよう</li> <li>・ 気軽に私的利用をしやすくしてほしい</li> <li>・ 団体に属していないと使いにくく個人が利用するにはハードルが高い</li> </ul>



## ⑤ 社会情勢・環境変化等への対応

スポーツの政策分野においては、第 3 期スポーツ基本計画(令和4年、スポーツ庁)では、「スポーツの価値」について、さらに拡大した意味づけがなされました。

スポーツの価値について、同計画では、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、「楽しさ」や「喜び」を感じ、人々の生活や心をより豊かにする「Well-being」の考え方にもつながる「スポーツそのものが有する価値」と、スポーツを通じて他の分野にも貢献し、優れた効果を波及したり、様々な社会課題を解決したりすることができる「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」があるとしています。

この価値をさらに高めていくため、国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」(第 2 期基本計画で示された)ことを真に実現できる社会を目指すため、「つくる／はぐくむ」視点、「あつまり」スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる視点、スポーツに「誰もがアクセス」できる視点の3つの視点が新たに加えられました。近年、都市公園の価値の広がりが見えなくなっており、都市公園が市民等の豊かなくらしづくりにより深く、より広く関与していく様々な概念が生まれてきています。

また、現在においては、「ライフパフォーマンスの向上」(困難な状況に陥ったとしてもそれを乗り越える力、それぞれのライフステージにおいて、環境変化や加齢等に心身機能を適応させながら、個々の課題解決や目標達成に向けて発揮できる能力である)が着目され、心身の健康の保持増進はもとより、QOL を高めることなど、Well-being の最大化に資する「目的を持った運動・スポーツ」の重要性も指摘されています。(令和 6 年 7 月「ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの 実践に関する実態・ニーズ調査検討委員会 中間取りまとめ ～ライフパフォーマンスについて～」)

スポーツ活動を取りまく自然環境に目を向けると、近年夏場の猛暑化が進んでおり、熱中症予防対策が必須となっています。屋内運動場における空調設備の導入や、屋外における日差しを遮ることができる設備、冷却ミストの設置などが標準対応となっています。

## ⑥ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良大会の協働機会

2031(令和13)年度に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が奈良県で開催されることが予定されています。全国トップレベルの試合が地元で身近に観戦できる約半世紀に一度の機会であり、地元出身のアスリートを直接応援できる貴重な機会となります。国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の地元開催は、市民の「する・みる・ささえる・つくる・はぐくむ・あつまり・ともに・つながる」スポーツ振興の転機となり、将来の本市のスポーツ活動の新たな礎になりうるものです。

現在、県の準備委員会で競技種目の選定が進められているところですが、本市としても国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良大会の協働機会を積極的に捉え、活かしていく必要があります。

## (2) 檀原市立小中学校における今後の水泳授業に関する展望

### ① 「檀原市立小中学校における今後の水泳授業に関する方針」(令和5年12月)

本市においては、令和5年 12 月に「檀原市立小中学校における今後の水泳授業に関する方針」を定め、学校水泳授業の集約化などを進めることとしている。本市のほぼ中央に位置し、総合運動公園として多様なスポーツ活動拠点機能を有する檀原運動公園の再整備にあたり、学校水泳授業の場としての屋内プール整備の受け皿となることが期待されます。

【図表30】「檀原市立小中学校における今後の水泳授業に関する方針」(令和5年12月)

本市の公立小学校及び中学校では、各校に設置された自校プールにおいて、学年別に指導内容及び目標が定められている学習指導要領に基づいた水泳指導を実施してきた。しかし、近年では新型コロナウイルス感染症の蔓延や豪雨、猛暑日の発生増加といった異常気象等により、小中学校設置の屋外プールにおいて水泳指導を実施できる機会が減少している。また、少子化等に伴う教員数減少等により、水泳指導の質の確保が困難となり、全国的にも児童生徒の泳力低下が課題となっている。

加えて、プール清掃、塩素投入等の水質管理、授業時の安全管理としての監視員確保が学校に課せられており、教員等の大きな負担となっている。施設面においても、学校プールの9割以上が設置から40年以上経過し、老朽化が進み、各施設の維持管理や修繕に毎年多大な費用を要し、その上、設置後20年を目途にろ過機を取り替える必要があり、プールを維持すること自体、財政上も大きな負担となっている。

以上を踏まえ、水泳授業の必要性を認識しながら、水泳学習の機会確保、水泳指導の充実、教員負担の軽減、維持管理コストに着目し、今後のプール施設の在り方について検討し、2つの方針をまとめた。

- 1 本市の公立小中学校に在籍する児童生徒が1年中使用できる25メートル規格の屋内プールを設置し、学校プールの集約化を行う。その際には、既存の檀原市総合プール(50メートル)の利活用も併せて検討する。
- 2 水泳授業実施の際には民間委託化、外部専門家を活用した水泳指導を行う。

### ② 檀原市内小中学校の水泳授業に関する需給状況のケーススタディ

小中学校の学校水泳授業を 25m 規格の屋内プールで集約して実施することを想定した場合の使用状況を検討するにあたっての前提条件及びケーススタディの結果は以下のとおりです。

設定した水泳授業の入水パターン3つのうち、パターン1及び2において、大プールは4月から3月ほぼ1年を通してフル稼働させることによりようやく小中学校の水泳授業受け入れが可能な結果となっています。パターン3の大プールでは概ね5月から1月までの間で受け入れ可能であり、小プールではいずれのパターンにおいても概ね5月から10月の間で小学生の水泳授業を集約して受け入れることが可能な結果となっています。なお、実際の導入に当たっては、各校からの移動手段的確保や屋内プール内動線の確保、各プールの学校水泳授業の利用方法や一般利用との整合など、詳細の運用計画を定めることが必要です。

【図表31】市内小中学校の水泳授業に係るケーススタディの前提条件

児童・生徒数	檀原市小中学校全校の令和6年度公表「生徒数」を参照
1学年当たり生徒数	「生徒数」÷学年数

1学年当たり授業時間数	「1学年当たりの授業時間時数」より、移動時間を除くコマ数×回数の最大数
授業時間	小学校45分、中学校50分を「1時間」と換算
平日(授業可能日)	休業日(土・日・祝日、夏季・冬季・春季休業日、始業式・終業式)を除く月～金曜日
プール種別	小学1～2年生:小プール(15m×15mを想定)利用 小学3～6年生・中学生:大プール(25m×6レーン以上を想定)利用
水泳授業入水パターン1	小学校:学年別、中学校:学年別かつ男女別での入水を想定した場合
水泳授業入水パターン2	小学校は学年別でかつ100人規模の低学年は2分割、中学校:学年別かつ男女別での入水を想定した場合
水泳授業入水パターン3	小学校:学年別、中学校:学年別での入水を想定した場合

【図表32】市内小中学校の水泳授業に係る必要時間数の試算

学校	全校 生徒数	1学年当 りの生徒数	1学年当 りの授業 時間数	水泳授業入水パターン						授業時間数計					
				パターン1		パターン2		パターン3		パターン1		パターン2		パターン3	
				小: 学年別 中: 学年別・男女別	小: 学年別 規模の低学年2分割 中: 学年別	小: 学年別 中: 学年別									
				学校別・1回の授業を行うグループの数											
				小プール	大プール	小プール	大プール	小プール	大プール	小プール	大プール	小プール	大プール	小プール	大プール
1.畝傍南小学校	353	58.8	14	2	4	2	4	2	4	28	56	28	56	28	56
2.畝傍北小学校	281	46.8	10	2	4	2	4	2	4	20	40	20	40	20	40
3.鴨公小学校	190	31.7	8	2	4	2	4	2	4	16	32	16	32	16	32
4.晩成小学校	328	54.7	10	2	4	2	4	2	4	20	40	20	40	20	40
5.耳成小学校	414	69.0	10	2	4	2	4	2	4	20	40	20	40	20	40
6.今井小学校	335	55.8	10	2	4	2	4	2	4	20	40	20	40	20	40
7.真菅小学校	589	98.2	8	2	4	4	4	2	4	16	32	32	32	16	32
8.金橋小学校	463	77.2	12	2	4	2	4	2	4	24	48	24	48	24	48
9.香久山小学校	97	16.2	10	2	4	2	4	2	4	20	40	20	40	20	40
10.新沢小学校	191	31.8	10	2	4	2	4	2	4	20	40	20	40	20	40
11.白樺小学校	292	48.7	10	2	4	2	4	2	4	20	40	20	40	20	40
12.耳成南小学校	635	105.8	10	2	4	4	4	2	4	20	40	40	40	20	40
13.真菅北小学校	565	94.2	10	2	4	4	4	2	4	20	40	40	40	20	40
14.畝傍東小学校	595	99.2	10	2	4	4	4	2	4	20	40	40	40	20	40
16.耳成西小学校	417	69.5	12	2	4	2	4	2	4	24	48	24	48	24	48
17.畝傍中学校	587	195.7	14	-	6	-	6	-	3	-	84	-	84	-	42
18.八木中学校	823	274.3	14	-	6	-	6	-	3	-	84	-	84	-	42
19.大成中学校	439	146.3	4	-	6	-	6	-	3	-	24	-	24	-	12
20.光陽中学校	294	98.0	4	-	6	-	6	-	3	-	24	-	24	-	12
21.白樺中学校	129	43.0	10	-	6	-	6	-	3	-	60	-	60	-	30
22.榎原中学校	506	168.7	16	-	6	-	6	-	3	-	96	-	96	-	48
23.畝中学校夜間学級	31	10.3	12	-	6	-	6	-	3	-	72	-	72	-	36
計			228							308	1,060	384	1,060	308	838

【図表33】市内小中学校の水泳授業に係る実施期間のシミュレーション

			計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平日(授業可能日)			193	15	21	20	13	0	18	22	20	15	17	18	14
休業日(授業なしの日)			172	15	10	10	18	31	12	9	10	16	14	10	17
日数計			365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
プール利用可時間数 (平日×6)			1,158	90	126	120	78	0	108	132	120	90	102	108	84
			必要時間数	(↓必要時間数確保のためのシミュレーション↓)											計
授業時間数計	パターン1	小プール	308		2	120	78	0	108						308
		大プール	1,060	38	126	120	78	0	108	132	120	90	102	108	38
	パターン2	小プール	384		78	120	78	0	108						384
		大プール	1,060	38	126	120	78	0	108	132	120	90	102	108	38
	パターン3	小プール	308		2	120	78	0	108						308
		大プール	838		126	120	78	0	108	132	120	90	64		838

※授業可能日・休業日は、2024年度の暦を用いて試算

## 5. 橿原運動公園整備の基本的な考え方

### (1) 整備により目指す方向性

#### 【整備により目指す方向性】

- 橿原運動公園を取り巻く社会的要請等やその他関連事項に対応し、周辺環境(まちづくり)の動向を踏まえて交流・賑わいの相乗効果を図ります
- 橿原運動公園の現在の機能を維持・向上させるとともに、新たな市民活動の拠点性を高めます
- 自然環境変化に対応し、市民の安全・安心を支える機能を高めます

畝傍山に抱かれた風光明媚な立地・景観、豊かな環境を活かし、ウェルビーイングやインクルーシブ、ライフパフォーマンス、SDGs等の市民の豊かな暮らしに関する社会的要請に応え、「橿原市スポーツ施設計画」や「橿原市地域防災計画」を推進し、奈良県立医科大学新キャンパス開校や奈良県新アリーナの建設、近鉄「新医大駅」構想などの周辺まちづくり動向と連動して交流・賑わいの相乗効果を高める公園を目指します。

また、現在の「屋外スポーツを楽しめる公園」「健康づくりができる公園」に加えて、「屋内スポーツ＆新たな市民活動を広げる公園」「新たな親水機能がある公園」「子育てに役立つ公園」となり、2031年(令和13年)国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良大会の開催契機を活かした様々なレガシーを創造・継承することで、市民活動の拠点性をさらに高める公園を目指すとともに、熱中症対策や、災害の激甚化への対応など、近年の環境変化に対応し、災害時により役立つ公園、市民がより安全・安心に利用できる公園を目指します。

### (2) 整備コンセプト

整備により目指す方向性の実現に向けて、以下の3つのコンセプトで橿原運動公園の新たな公園環境づくりを行い、将来にわたって広く市民に求められ、親しまれる公園整備を行います。

#### 整備コンセプト①

市民の誰もが利用でき、すべての人にやさしい環境づくり [インクルーシブ／ユニバーサル]

- 子どもから若者、子育て世代、高齢者まで、また、障害の有無に関わらず、スポーツをはじめとした様々な市民のより気軽な利用を促進する環境を整備します。
- 体験できるスポーツ種別を広げ、公園の利便性を高めることで、既存の市民利用に加え、新たな市民の利用を促進する環境を整備します。

#### 整備コンセプト②

人が集い、交流の拠点となる環境づくり [感動体験／ウェルビーイング／QOL]

- 公式大会などの公認基準を満たす施設を備え、レベルの高い試合観戦やトップアスリートとの交流などを通じた感動体験を生み、育むことや、それぞれのライフステージや志向に応じて多様なスポーツ活動に親しみ、心身の成長や健康が促進する環境を整備します。
- 橿原運動公園でこれまで行われることがなかったスポーツを含む多種多様なイベントが開催され、市民はもとより、市外からも人が訪れ、多彩な体験・交流を促進する環境を整備します。

### 整備コンセプト③

より安心・安全で快適な環境づくり [安心・安全／快適]

- 橿原運動公園の指定避難場所・指定緊急避難場所としての災害時対応機能を拡張することで、災害時の市民のさらなる安心・安全を支える環境を整備します。
- 熱中症対策をはじめとする日常利用時の緊急対応機能を高め、既存施設利用で市民から寄せられている課題への対応を行い、より快適に利用できる環境を整備します。

## (3) 整備方針

橿原運動公園の目指す方向性を実現するための 3 つの整備コンセプトを踏まえ、以下の5つの整備方針により橿原運動公園の整備を行います。

### 整備方針①

新機能導入用地としての公園区域の拡張

- ・ 橿原運動公園の新たな機能を導入する用地として、また、橿原運動公園と周辺まちづくりとの連動性を高めるため、橿原運動公園の北東区画の用地を公園区域として拡張します。

### 整備方針②

スポーツ活動の礎となる基盤としての新体育館・屋内プールの整備

- ・ 建替再整備が急務となっている中央体育館の機能を橿原運動公園の拡張用地に整備します。現中央体育館は解体し、敷地は新たなまちづくり用地として活用します。
- ・ 廃止となっている総合プールの親水機能を継承し、市民が季節・天気を問わず利用できる屋内プールを橿原運動公園の拡張用地に新たに整備します。また、屋内プールは水泳授業の集約の受け皿としての利用も想定し、学校プール運営にかかっていた費用や労力の縮減を図ります。
- ・ 体育館・屋内プール共に、市内における公式競技に活用可能な施設水準を備えつつ、できるだけコンパクトな規模とします。また、将来的なスポーツ施設利用需要の変化に伴う市内公共スポーツ施設再編(総量コントロール)の利用需要の中心的な受け皿としての役割も担います。

### 整備方針③

災害時の避難場所等、市民の安全・安心を支える機能の導入

- ・ 新たな屋内施設(新体育館・屋内プール)を整備し、災害対応時に求められる機能を備えることで、橿原運動公園の指定避難場所・指定緊急避難場所としての機能を大幅に向上させます。

- ・ 既存の屋外施設の利用にあたって特に大きな課題となっていた、熱中症対策や怪我・急病などへの対応について、新体育館・屋内プールでの対応に加えて、災害時は移動式の避難所として活用できるクラブハウスや、より安全に利用・観戦するためのスタンド屋根の整備、ミストシャワー機能の整備など、市民の安全・安心を支える機能を導入します。

#### 整備方針④

#### 市民の多様な活動を支え、快適に利用できる機能の補完

- ・ 新たな屋内施設(新体育館・屋内プール)や、クラブハウス、スタンド屋根などの整備により、市民から寄せられていた既存の橿原運動公園や個別施設の利用において、不便である、不足していると指摘されていた機能を補完します。
- ・ 園路やベンチなどを含む公園内施設の長寿命化や修繕の時期に合わせて、施設設備の老朽化対応を行い、より快適で便利に使用できる設備更新を行います。
- ・ 新たな屋内施設(新体育館・屋内プール)の整備に伴い拡張用地に駐車場を確保し、大会や大規模イベント開催時に不足していた駐車場総数の確保に努めるとともに、公園へのアプローチや公園内のアクセスの利便性を高めます。

#### 整備方針⑤

#### 公園内施設の再編・新たな利活用の推進

- ・ 「橿原市スポーツ施設計画」に基づき、軟式野球場とソフトボール場の集約を行います。
- ・ 総合プールについては、個別施設の特性を生かして、例えば、スタンド棟の合宿受入機能としてのリノベーション活用や、アーバンスポーツとしての機能転用活用、一部限定的な親水空間としての再活用など、解体費用等も考慮して再投資額をできるだけ抑制した利活用可能性を検討し、敷地・施設の有効活用を図ります。



【図表34】 榎原運動公園整備方針



(出典) 国土地理院地図を基に作成



## 6. 新体育館・屋内プール整備の考え方

### (1) 新体育館・屋内プールの整備方針

橿原運動公園の整備コンセプト・整備方針に基づく、新体育館屋内プールの整備方針は以下のとおりです。

#### 整備方針①

社会要請・将来需要に応え、新たな感動体験を得るコンパクトな新体育館・屋内プール

- ・ 新体育館は、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良大会における屋内スポーツの大会会場として、これまで本市にはなかった主な屋内スポーツ競技の大会開催基準をコンパクトに満たす床面積とし、観客席を 1,000 席程度に拡張し、全国トップレベルの試合や市民・地域の大会で使用するとともに、市民が日常的な屋内スポーツ(する・みる・ささえる・つくる・はぐくむ・あつまり・ともに・つながる)活動ができる体育館として整備します。また、地元出身のトップアスリートによるスポーツ教室や、スポーツ以外の催事・イベント等でも活用する、新たな感動体験空間を提供します。
- ・ 屋内プールは、季節や天候に関わらず市民が広く健康増進のために利用でき、幼児から子どもまで安心して水に親しめる水深の浅いプール(15m 正形)と、小学校3年生からお年寄りまで全ての市民が使用でき、市内の大会や小中学校の水泳部活動に活用できるプール(25m×10 レーン、公認プールではない)を整備します。大人用のプールについては、小学校3年生から中学校部活動(飛び込み利用)まで1槽で安全に対応するため、費用対効果も考慮して可動床の導入も検討します。
- ・ 新体育館、屋内プール共に、必要な機能は備えつつ、効率的な諸室利用を想定して、できるだけコンパクトな規模に押さえます。

#### 整備方針②

橿原市のインクルーシブを牽引する拠点としての新体育館・屋内プール

- ・ 全国障害者スポーツ大会奈良大会を契機として、障害者スポーツの大会・練習環境を提供するとともに、障害の有無に関わらず、あらゆる市民が楽しむことができるユニバーサルスポーツの振興を図るなど、スポーツを通じた本市のインクルーシブを牽引する新体育館・屋内プールを整備します。
- ・ 施設についても、車椅子でもストレスなく館内を利用できるバリアフリーとし、車椅子のまま観戦可能なユニバーサル観戦エリアなどの機能を備えます。

#### 整備方針③

市民の安全・安心を支える災害対応拠点としての新体育館・屋内プール

- ・ 空調・非常用電源を備え、災害対応時に屋内諸室を有効に活用し、支援物資搬入動線を確保した新体育館・屋内プールを整備することで、これまで十分とは言えなかった橿原運動公園における指定避難場所・指定緊急避難場所としての機能を大きく向上させます。
- ・ また、熱中症や怪我・急病時に応急処置が可能な医療室を設け、平常時にも市民の安全・安心な利用を支える機能を備えます。

## (2) 新体育館・屋内プールの導入機能・規模等

### ① 新体育館の導入機能・規模等

整備方針を踏まえた新体育館の導入機能・規模等は以下のとおりです。

【図表35】新体育館の導入機能・規模

導入機能	機能・諸室	基本的な考え方	想定面積
メインアリーナ	競技床	競技床面積 1,400～1,600 m <sup>2</sup> 、有効天井高さ12.0mを確保※バドミントン 10 面、バスケットボール・バレーボール:2 面 フットサル・ハンドボール:1 面 卓球:10 面	約 3,150 m <sup>2</sup>
	観客席	固定席 1,000 席程度を確保、車椅子使用者などの多目的観覧席を含む	
多目的スタジオ	競技床	競技床面積 200 m <sup>2</sup> を確保 ※バドミントンコート1面 大会時の補助会場として、日常時は	約 220 m <sup>2</sup>
共用	トレーニングルーム	市民の運動利用やアスリートのトレーニングに対応	約 2,530 m <sup>2</sup>
	更衣室・シャワー室	ロッカールーム、シャワー室、トイレを備えた更衣室	
	トイレ・ベビールーム	多目的トイレ、ベビールームを含むトイレ	
	多目的室・会議室等	各種競技大会の運営やボランティア等、災害時の別室活用等で利用する多目的室・会議室	
	放送室・審判室・医療室等	円滑な大会運営に必要な放送室・審判室、怪我・急病等の応急・一時処置を行う医療室	
	眺望テラス	畝傍山・檀原運動公園を眺望できるテラス空間	
その他	管理事務室、器具庫、機械室等	管理者用の事務室、スポーツ備品・器具の保管庫、各種機械室、ホールやピロティなど、必要な機能	約 500 m <sup>2</sup>
	選挙関連倉庫	選挙会場の備品や投票用紙等を保管する倉庫	
防災機能	災害対応・物資等保管庫	支援物資保管庫として外から直接物資を搬入出可能な倉庫等	約 200 m <sup>2</sup>
延床面積		—	6,400 ～6,600 m <sup>2</sup>

※:屋内プールと重複している共用部分の集約化の可能性に関する検討を含む施設計画、床面積の精査、設備計画については、今後さらなる検討を行う。

【図表36】檀原市中央体育館(参考)

檀原市中央体育館			
供用開始年度	昭和 46(1971)年度	構造・階数	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造 3階
施設面積	3,653.71 m <sup>2</sup>	駐車場	第 1～3駐車場:計 436 台※万葉ホール兼用
アリーナ	競技可能種目:バレーボール、ソフトバレーボール、バドミントン、バスケットボール、バウンドテニス、卓球等 競技床:813m <sup>2</sup> 、高さ9.5m ※バドミントン4面、バスケットボール・バレーボール2面 観客席:444席(固定)		

## ② 屋内プールの導入機能・規模等

整備方針を踏まえた屋内プールの導入機能・規模等は以下のとおりです。

【図表37】 屋内プールの導入機能・規模

導入機能	機能・諸室	基本的な考え方	想定面積
屋内プール	小学校高学年以上用プール	小学校3年生から大人まで広く利用できる25m×10レーンのプールを整備 ※小学校3年生以上の水泳授業(水深 1.1～1.2m)から部活動飛び込み利用(水深 1.35m以上)まで1槽で対応するため、可動床の導入も検討	約 2,000 m <sup>2</sup>
	小学校低学年用プール	幼児から小学校2年生以下が使用する 15m×15mのプールを整備 ※水深 0.6m	
	観客席	プールサイドで代用	
共用	更衣室・シャワー室・トイレ	学校利用、一般利用それぞれのロッカールーム、シャワー室を備えた更衣室、トイレを整備	約 520 m <sup>2</sup>
	監視員室・放送室・医療室等	監視員室・放送室、応急・一時処置を行う医療室を整備	
	多目的室	会議や小学校低学年の更衣室等でも活用可能な多目的利用の部屋を整備	
その他	管理事務室、器具庫、機械室等	管理者用の事務室、プール備品・器具の保管庫、各種機械室、ホールなど、必要な機能を具備	約 980 m <sup>2</sup>
延床面積		－	約 3,500 m <sup>2</sup>

※:新体育館と重複している共用部分の集約化の可能性に関する検討を含む施設計画、床面積の精査、設備計画については、今後さらなる検討を行う。

## ③ 拡張用地におけるその他付帯施設等の導入機能・規模

拡張用地におけるその他付帯施設等の導入機能・規模等は以下のとおりです。

【図表38】 拡張用地におけるその他付帯施設等の導入機能・規模

導入機能	基本的な考え方
広場	橿原運動公園の新たなエントランス空間としての広場空間 既存公園区域と拡張用地をシームレスにつなぐ広場空間
駐車場	接道からの安全な車両動線の設定と、車停めの確保、駐車場の確保

## 7. 想定される事業手法の類型整理

### (1) 檀原運動公園整備事業の全体構成と想定事業手法

檀原運動公園整備事業の全体構成及び想定事業手法は以下のとおりです。

【図表39】 拡張用地におけるその他付帯施設等の導入機能・規模

事業構成	事業内容	想定される事業手法
新用地基盤整備	測量・用地測量(境界明示) 造成基本設計、造成実施設計、造成工事	従来方式(入札) DB 方式(設計施工一体プロポーザル)
新体育館・屋内プール (付帯広場・駐車場含む)整備	基本設計	民活手法も含めて検討 従来方式(個別入札)／ DB 方式(設計施工一体プロポーザル) PFI 方式(設計施工運営一体プロポーザル)
	実施設計	
	建設工事	
既存施設機能拡充整備	クラブハウス整備(プレハブ)	従来方式(入札)
	園内舗装工事	従来方式(入札)
既存施設集約整備	軟式野球場・ソフトボール場集約	従来方式(個別入札)／ DB 方式(設計施工一体プロポーザル)
既存施設利活用整備	総合プールの利活用に係る事業	※活用施設・活用事業内容による

※起債が困難な場合は、民間活力を活用した事業手法(長期分割払)

### (2) 新体育館・屋内プールの事業手法

新体育館・屋内プールの事業手法として想定されるそれぞれの手法の特徴等は以下のとおりです。

本市の実情を踏まえて、2031(令和13)年度の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良県大会までに確実に竣工を迎えることが必要条件となります。

【図表40】 拡張用地におけるその他付帯施設等の導入機能・規模




	従来方式	DB 方式	PFI 方式(BTO)
概要	・「設計」「建設」「運営」の各業務を個別に発注する	・「設計・建設」をまとめて、「運営」を個別に発注する ※「基本設計」「実施設計＋施工」と「基本設計＋実施設計＋施工」の2方式がある	・民間資金を活用して「設計・建設・運営」をまとめて発注する ※公共はSPCに対して、事業期間にわたって、サービス購入料を支払う(割賦払い) ※PFI導入可能性調査、アドバイザー業務発注が必要
特長	・仕様発注:行政の意向がしっかり反映された施設整備がなされる	・性能発注(設計・建設):民間創意を活かした施設整備がなされる	・性能発注(設計・建設・運営):民間創意を活かして運営と一体となった施設整備がなされる
主な課題	・発注事務手続きの回数を要する、行政の発注手続き等の事務負担が大きい ・民間創意が働きにくい	・建設費上昇リスクのコントロールが必要 (特に「基本設計＋実施設計＋施工」の場合)	・事業者選定に際してPFI法に則った所定の手続きが必要 ・建設費・運営費上昇リスクのコントロールが必要

## 8. 施設整備スケジュール

### (1) 段階的整備

橿原運動公園の整備は、「橿原市スポーツ施設計画」に基づき、2031(令和13)年度に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良大会などの時機を捉え、財政状況を鑑みて、段階的に、かつ計画的に実施していく必要があります。中長期的に本構想の全体像を具現化していくことを見据えながら、整備内容の優先順位を定め、短期的な整備を着実に実施します。

【図表41】 橿原運動公園の段階的整備の実施

段階的整備	短期(~2030)	中長期(2031~)
①②公園区域拡張、新体育館・屋内プール整備 ④安全・安心機能の導入	注力 	
③市民の多様な活動を支え、不便を解消 ⑤公園内施設の再編・新たな利活用の推進	できることから順次着手 	注力 

### (2) 短期的整備の整備スケジュール

短期的整備については、2031(令和13)年度に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会 奈良大会における協働機会を見据えて、拡張用地を活用した新体育館・屋内プールの整備を目標に据えます。

【図表42】 短期的整備の整備スケジュール(従来型の場合・発注事務手続等含む)

	2025/R7 年度	2026/R8 年度	2027/R9 年度	2028/R10 年度	2029/R11 年度	2030/R12 年度	2031/R13 年度
拡張用地取得手続							国民スポーツ大会・ 全国障害者スポーツ大会 奈良大会
都市計画決定手続							
拡張用地調査設計							
拡張用地造成工事							
新体育館等基本計画							
事業手法確定							
設計(基本・実施)							
施工							
開館準備・竣工							

## 9. 事業費概算(短期的整備)

近年の同種同類他都市整備事例から試算した事業費概算(短期的整備)は以下のとおりです。  
交付金・補助金、地方債等を効果的に活用した整備事業の推進が求められます。

- 新体育館(約6,600㎡):約38億円程度
- 屋内プール(約3,500㎡):約23億円程度
  - ※造成費・インフラ盛替え工事費等は含まず
  - ※調査・設計費等は含まず
  - ※将来の物価上昇については反映していない

### <資金調達について>

※活用可能性について検討することが期待される交付金・補助金、地方債等の主な例

#### ▼交付金・補助金等の例

国土交通省	社会資本整備総合交付金 防災・安全交付金 補助率:1/3～1/2(都市公園・緑地等事業)
内閣府	新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金) 補助率:1/2 国費上限額:5 億円(地方創生拠点整備タイプ)
(独)日本スポーツ振興センター	大規模スポーツ施設整備助成 地域スポーツ施設整備助成・スポーツ施設等整備事業 補助率:2/3
環境省	(設備等)建築物等のZEB化・省CO2化普及加速事業 補助率:1/4～2/3(ZEB 普及促進に向けた省エネルギー建築物支援事業) (設備等)地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業 補助率:1/2～2/3

#### ▼地方債の例

緊急防災・減災事業債(充当率 100%、交付税措置率 70%)～R7
脱炭素化推進事業債(充当率 90%、交付税措置率 30～50%)～R7
防災対策事業債(充当率 75%、交付税措置率 30%)



## 10. 橿原運動公園整備事業推進に向けて

---

### (1) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良県大会を見据えた事業実行

---

- ・ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良大会は、開催県市町村にとって老朽化したスポーツ施設再編の重要な契機であり、トップアスリートとの交流継承、地元アスリートの育成継承、市民のスポーツ実施率向上、する・みる・ささえる・はぐくむ・つくるスポーツを広げる、スポーツ政策上も重要な契機です。
- ・ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良大会における本市の協働機会を逸しないことが最重要課題であり、本市においては、特に、中央体育館の再整備と連動させて今後の公共スポーツ施設再編の先鞭をつける新体育館を着実に整備することが必要です。

### (2) 拡張用地取得と基盤整備

---

- ・ 現在は農地等である橿原運動公園北東部エリアの拡張用地について、都市計画決定も含めて事業工程に支障を及ぼさない各種調査・造成設計・造成工事の推進が不可欠です。
- ・ 都市計画部局、建築部局、道路部局等の関係部局と密に連携して、各種手続きをスムーズに進めていくことが必要になります。

### (3) 基本計画の策定及び事業手法の確定

---

- ・ 本構想を踏まえて、新体育館等の整備運営事業の範囲・構成、事業計画や運営計画、人員計画、施設計画、工事費や人件費の動向を踏まえ設計費等を含む事業費の算定など、実際の整備運営事業を推進するための基本計画を策定する必要があります。
- ・ 併せて、本事業の工程上、事業手法についても速やかに確定していくことが求められます。特に PFI を活用する場合、アドバイザー契約を速やかに締結して事業準備に係る必要があります。

### (4) 効率的・合理的な事業監理

---

- ・ 2030(令和 12)年度内に竣工までたどり着くためには、工期の延長や入札不調などがなく、一連の手続き・工程が途切れることなく進めていく必要があります。
- ・ 本市の建築技術職員のマンパワー不足などの実情を踏まえると、各種手続きの効率化・合理化が必要になります。
- ・ コンストラクションマネジメントやプロジェクトマネジメントなど、外部(民間)のノウハウやマンパワーを活用して、効率的・合理的な事業推進を監理することも検討する必要があります。

#### ※コンストラクションマネジメント・プロジェクトマネジメント

発注者側の立場に立って、コンストラクションマネージャーやプロジェクトマネージャーが設計や計画立案の段階から、コストや品質、スケジュール、情報管理を行う事業監理の手法